

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

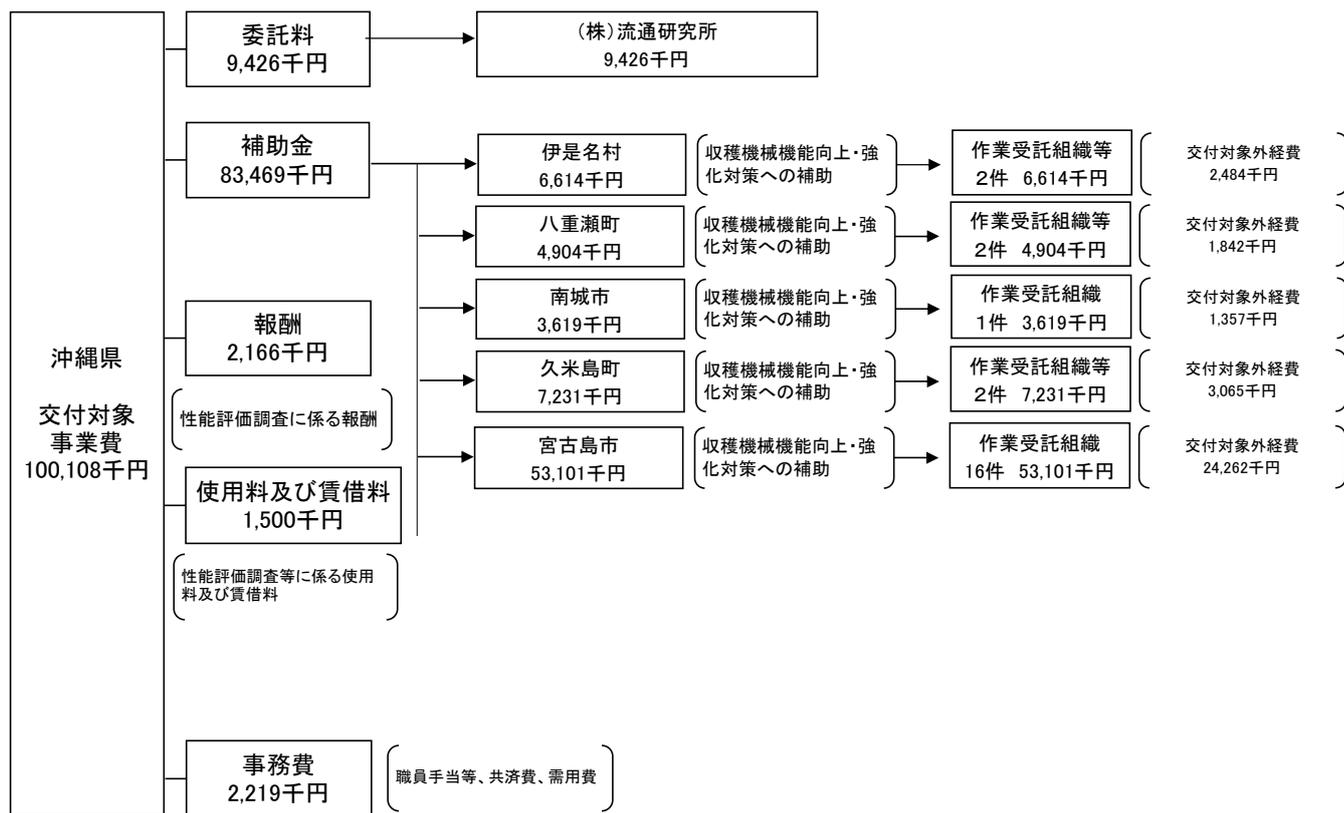
事業番号・事業名	78	さとうきび機械化一貫体系モデル事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	3-(7)-ア-③			
				さとうきび等の安定品目の生産振興			
担当部署名	農林水産部 糖業農産課	事業実施（予定）年度	H27～R6 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	合理的なさとうきびの機械化一貫体系を確立し、基幹作業の受託体制強化による生産性の回復、安定化に向け、より一層の「飛躍的な省力化、作業効率化」を図るための取組を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度（    年度）						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（    ）						
予算額・執行額【単位：千円】	予算の状況		R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度
		(a) 当初予算額	107,788		92,953		104,644
		(b) 予算現額	76,389		76,881		104,644
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 31,399	0	▲ 16,072	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計 (b+d)	76,389	0	76,881	0	104,644
		B. 執行済額	75,109		75,170		100,108
		うち交付金充当額	60,087		60,136		80,086
		C. 次年度繰越額	0		0	0	0
		執行率（%）(B/A)	98.3%		97.8%		95.7%
予算の状況の説明	・執行率は95.7%となり、概ね計画的に執行出来た。						
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	①効率的な機能向上・強化対策への支援	目標	31台	21台	21台	23台	
		実績	28台	21台	17台	25台	
	②オペレータ確保・技能向上研修会の開催	目標	2地区	—	—	—	
		実績	2地区	—	—	—	
	③スマート農業技術の経営改善効果を評価する運営検討委員会の開催	目標	3回以上	—	—	—	
		実績	4回	—	—	—	
	④先進技術を活用するための研修メニューの創設	目標	—	1件	—	—	
		実績	—	1件	—	—	
⑤デジタル技術を活用するオペレータ養成者数	目標	—	—	50名	60名		
	実績	—	—	62名	71名		
進捗状況説明	①収穫機械機能向上・強化対策への補助について、事業費の縮減による補助金減が生じたものの、6市町村（25台）で事業を実施し、目標を達成出来た。 ⑤デジタル技術を活用するオペレータを養成するためのスマート農業技術研修会を6地区で開催し（8回）、参加者が71名となり、目標を達成出来た。						
成果目標（指標）及び達成状況	R6成果目標（指標）		基準値（R3年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R6年度）
	①ハーベスタ収穫率	目標	—	82.6%	84.8%	87.0%	87.0%
		実績	—	84.5%	87.0%	88.4%	
	②先進技術の利活用に取り組む農業法人等率	目標	—	5.0%	10.0%	12.0%	12.0%
		実績	—	6.3%	14.6%	19.2%	
	達成状況説明	①ハーベスタ収穫率のR6年度実績は88.4%となり、目標87.0%を上回り達成できた。 ②先端技術の利活用に取り組む農業法人等率については、令和7年3月末時点のさとうきび農業法人数（240件）に対して、自動操舵システムや経営・生産管理システム等の導入件数が「46件」となったことで目標以上の実績を達成できた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他品目と同様に高齢化が進んでいることから、重労働である収穫や植付作業の委託(機械利用)への要望が高まっている。</li> <li>・委託作業の要望が増加していることから、地域における基幹作業受託体制の強化による安定生産性の持続化を図るため、作業受託者の育成並びに先端技術を活用した作業の効率化・省力化が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区さとうきび増産計画プロジェクト会議等関係機関が情報共有する場で、効率的・計画的な高性能農業機械導入とスマート農業技術の活用について協議する。</li> <li>・スマート農業技術の普及が進展している水稻等を参考に、さとうきびで活用可能な技術の検証等を行うことで、先端技術の導入や普及、利活用可能な人材育成に向けた研修会実施等の取組を推進する。</li> <li>・人材不足に伴う生産性低下が生じている含蜜糖地域においても飛躍的な省力化を目指した研修会等の実施が必要である。</li> </ul>

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区さとうきび増産プロジェクト会議等関係機関が情報を共有する場で、地域の合意及び効率的・計画的な高性能農業機械導入等について協議する。</li> <li>・さとうきびにかかる地域毎の会議において、収穫機械化により生じた課題を協議し、具体的対策(株出管理展示ほ設置等)の実施により、生産性の維持向上を目指す。</li> <li>・水稻で利活用が普及している農業散布用ドローンに関しては、さとうきびにも応用が可能であることから、令和6年度以降のスマート農業技術研修会のカリキュラムとして取り上げ、ドローンの利活用が可能な人材育成を推進する予定。</li> <li>・令和7年度から研修会実施地域を拡大し、人材不足等を要因とした生産性の低下が生じている含蜜糖地域においてもスマート農業技術研修会を実施する。</li> </ul>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
137,431	100,108	80,086	20,022	0	0	37,323



資金の使用の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の使用の流れ、費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委託事業者は、沖縄県随意契約ガイドラインに基づき選定しており、妥当である。</li> <li>○費用・使途は、事業目的達成の観点から額の確定に伴う事業完了検査時において、書類及び現地確認を適正に行っている。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	80	山羊消費供給安定化事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)		3-(7)-7-②		
担当部課名	農林水産部 畜産課	事業実施 (予定)年度	H30~R7	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	肉用牛・養豚の生産振興	
事業内容	県産山羊肉の安定供給を図るため、飼養規模拡大に伴う課題の解決を目的とし、以下のことに取り組む。 1 飼養管理技術に関する検討会の開催 2 飼養管理技術の実証試験の実施 3 飼養管理技術・疾病予防に関する講習会の開催 4 新たに導入する山羊に対して家畜購入費の8/10(上限7万円)の補助						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度( R7 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 (    )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度
		(b) 予算現額	10,766	—	7,723	—	7,751
		(c) 増減額(b-a)	10,766	—	7,723	—	7,751
		(d) 前年度繰越額	0	—	0	—	0
		A. 計(b+d)	—	—	—	—	—
	B. 執行済額		10,766	—	7,723	—	7,751
	うち交付金充当額		8,938	—	6,832	—	6,778
	C. 次年度繰越額		7,151	—	5,466	—	5,422
	執行率(%) (B/A)		0	—	0	—	0
	執行率(%) (B/A)		83.0%	—	88.5%	—	87.4%
予算の状況の説明		・沖縄県産山羊肉の供給安定化を図るため、飼養規模の拡大に伴う課題の解決を目的に、令和4年度からの新規事業(平成30~令和3年度で実施したおきなわ山羊改良基盤整備事業の後継事業)として、飼養管理技術の確立・普及(実証試験・講習会)及び飼養規模拡大推進に要する経費として需用費及び補助金等を計上した。 ・執行率は87.4%であり、主に補助金額の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	小規模農家に対して、飼養規模の拡大における課題を検証し、実用可能な飼養管理技術の実証を行う。	目標	—	1件	1件	1件	
		実績	—	1件	1件	1件	
	山羊家畜セリ市場において取引される繁殖山羊20頭について導入費を補助する。	目標	—	20頭	20頭	20頭	
		実績	—	20頭	16頭	13頭	
北部、中南部、宮古、八重山の4地域において技術講習会を開催	目標	—	5回	5回	4回		
	実績	—	5回	7回	4回		
進捗状況説明	・飼養管理に関する実証試験を昨年に引き続き1件実施中である。 ・県内の山羊セリにて各山羊生産部会が導入した優良山羊13頭に対して導入費用の助成を行った。 ・山羊の飼養管理技術講習会を各地域で計4回開催した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R7年度)
	飼養管理技術に関する検討会の開催:年3回	目標				3回	
		実績				3回	
	実証試験:1件	目標		聞取調査:25件 実証試験:1件	聞取調査:25件 実証試験:1件	1件	
		実績		聞取調査:26件 実証試験:1件	聞取調査:37件 実証試験:1件	1件	
	優良種畜の20頭増	目標		20頭	20頭	20頭	
		実績		20頭	16頭	13頭	
	技術講習会の開催:4回 講習会参加者:100人	目標		開催数:5回 参加人数:150人	開催数:5回 参加人数:150人	開催数:4回 参加人数:100人	
実績			開催数:5回 参加人数:56人	開催数:7回 参加人数:104人	開催数:4回 参加人数:71人		
【R7 成果目標】 優良種畜の80頭増		目標				80頭	
達成状況説明	①飼養管理技術に関する検討会を3回開催した。 ②検討会にて決定された実証試験を1件実施した。 ③県内の山羊セリにて各山羊生産部会が導入した優良山羊13頭に対して導入費用の助成を行ったが、目標の20頭を達成できなかった。達成できなかった主な理由としては、年度内の山羊セリで優良山羊の出品数が少なかったことによるものである。 ④山羊の飼養管理技術講習会を県内各地域で計4回開催したが、目標の参加人数100人を達成できなかった。達成できなかった主な理由としては、前年度に講習会を実施した地域の参加人数が少なくなったことによるものである。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>前年度の講習会と内容が同じであったため、前年度講習を受けた人の参加が減り、全体の受講者数が減ったと考えられる。しかし、山羊の飼養頭数はいまだ減少傾向であり、疾病や事故による死亡が減っていないと推測され、そのような事故を防ぐために、飼養管理講習会への参加人数を増やす必要がある。</p>	<p>講習内容をより充実させることや、新たな講師を呼ぶことで農家により興味を持ってもらえるようにする必要がある。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>講習会について、新たに講師を呼ぶことや、講習内容を最新の試験結果等を踏まえて拡充するために各関係機関と調整し、実施していく。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
7,409	6,778	5,422	1,356	0	0	631
<pre> graph LR     A[沖縄県 交付対象事業費 6,778千円] --&gt; B[補助金 891千円]     A --&gt; C[報酬 1,507千円]     A --&gt; D[需用費 3,088千円]     A --&gt; E[事務費 1,292千円]     B --&gt; F[JAおきなわ山羊生産 振興協議会 891千円]     F --&gt; G["(受益者負担分 (交付対象外経費) 631千円)"]     E --- H["(共済費、旅費、役務費、 職員手当等)"]   </pre>						

資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○補助事業者は、事業費の2割を負担し、事業内容や他の事業負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

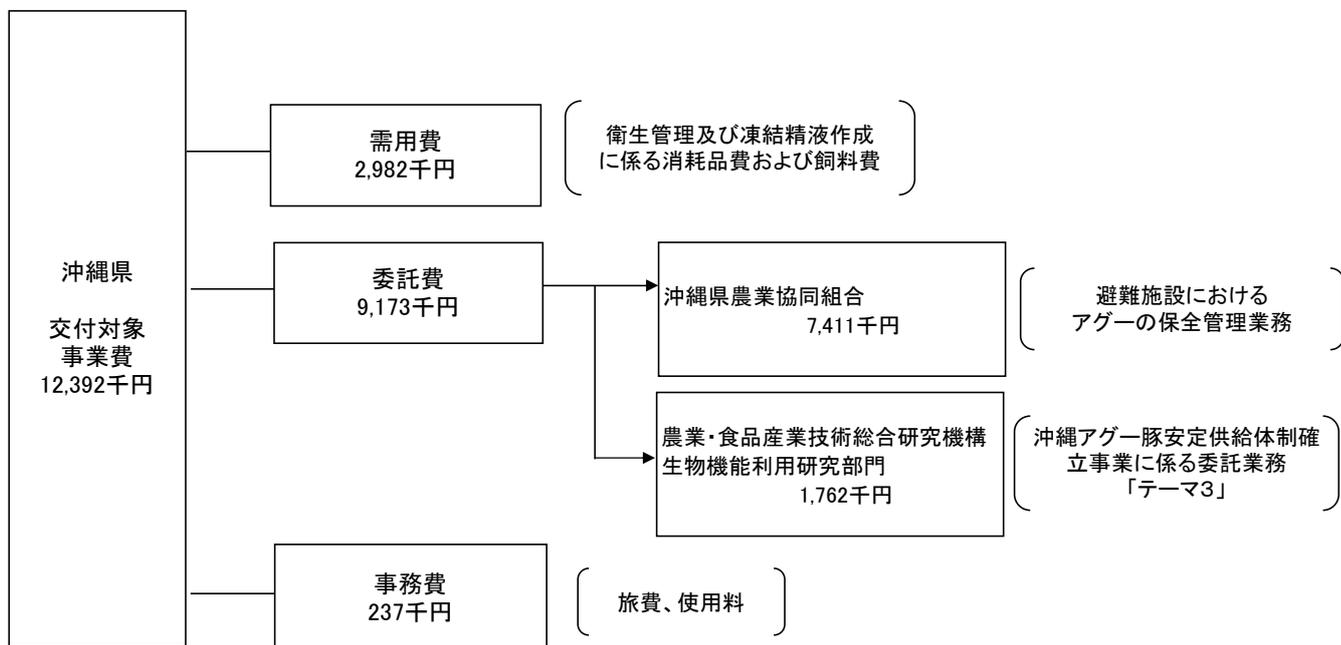
事業番号・事業名	81	沖縄アグー豚保全体制構築事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	3-(7)-ア-②			
担当部課名	農林水産部 畜産課	事業実施（予定）年度	H28～R8 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	肉用牛・養豚の生産振興		
事業内容	豚熱、アフリカ豚熱等の悪性伝染病の脅威から貴重な固有種であるアグーを守るため、アグーの分散および凍結技術により保全体制の構築を図る。						
効果発現年度	■当年度      ■後年度（R8年度）						
実施方法	■直接実施      ■委託      □補助      □負担      □その他（      ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	20,354	—	15,396	—	15,396
	(b) 予算現額	20,354	—	15,396	—	15,396	
	(c) 増減額 (b-a)	0	—	0	—	0	
	(d) 前年度繰越額	0	—	0	—	0	
	A. 計 (b+d)	20,354	—	15,396	—	15,396	
	B. 執行済額	13,724	—	12,438	—	12,392	
	うち交付金充当額	10,980	—	9,950	—	9,914	
	C. 次年度繰越額	0	—	0	—	0	
	執行率（%）(B/A)	67.4%	—	80.8%	—	80.5%	
予算の状況の説明	・執行率は80.5%である。久米島での飼養管理委託に係る委託費の残が生じたことによるものである。要因としては、久米島避難豚舎で飼養管理を行っているアグー種豚における産子の作出頭数が計画よりも少なかったために飼料費が浮いたためである。						
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	施設内でのアグー母豚の分娩	目標			1回	1回	1回
		実績			1回	1回	1回
	県内アグー生産農場への分散飼育	目標			1回	1回	
		実績			0回	0回	
高品質な凍結胚の採取のための試験	目標		3回	3回	3回		
	実績		3回	3回	3回		
進捗状況説明	・アグーの増頭を図るため、施設内でのアグー母豚の交配を行い、1回の分娩を実施している。 ・施設内におけるアグー産子の作出数が計画よりも少なかったことから、分散飼育については実施を見送ることとなった。 ・3回の優良アグー雌豚の高品質な凍結体内胚を計71個採取した。						
成果目標（指標）及び達成状況	R6成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（〇〇年度）
	施設内でのアグー母豚の分娩	目標		1回	1回	1回	—
		実績		1回	1回	1回	
	県内アグー生産農場への分散飼育又は精液の配布1戸以上	目標			1回	1回	—
		実績			0回	0回	
	凍結受精卵・凍結体内胚によるアグー産子の生産1産1以上	目標				1回	—
実績					0回		
達成状況説明	【R6成果目標】 ・施設内でのアグー母豚の分娩を1回実施、目標を達成した。 ・施設内におけるアグー産子の作出数が計画よりも少なかったことから、分散飼育については実施を見送った。 ・沖縄アグー豚受精卵の移植に伴う試験を実施し、計5頭の母豚へ凍結体内胚の移植を実施し、うち4頭が未受胎、1頭は経過観察中という結果となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	令和2年1月に本県で豚熱が発生し、アグーの一部が殺処分された。現在も近隣の韓国を含むアジア地域ではアフリカ豚熱等の家畜伝染病が発生している状況であり、今後も家畜伝染病が侵入した場合、アグーが壊滅的な被害を受ける恐れがあるため、離島を含む沖縄県内の広域において、アグーの遺伝資源を守る生産体制を維持する必要がある。	久米島避難豚舎内では令和2年に避難した種豚の高齢化が進んでいる。また、施設内の系統だけで交配することで年々の近交係数が上昇しており、繁殖性の低下等の問題が生じる恐れがある。そのため新たなアグー種豚を再導入することで近交度の緩和を図る必要がある。

今後の取り組み方針
・アグーを所有する指定生産農場からのアグー種豚もしくは種豚候補豚の導入を行うことで避難施設内の近交度を緩和し、アグー産子の生産基盤を維持する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
12,392	12,392	9,914	2,478	0	0	0



資金の 使途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○避難施設における保全管理業務は、契約の相手方が1社のみであったため、随意契約とした。研究業務委託は、企画提案審査会により選定しており、妥当であったと考える。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものについて額の確定時の際に支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	83	自給飼料生産課題解決モデル事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-7-②			
担当部課名	農林水産部 畜産課	事業実施 (予定)年度	H31~R6 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	肉用牛・養豚の生産振興		
事業内容	寒地型牧草の沖縄県内各地域に対応した栽培方法を確立するため、展示圃を沖縄県全域に設置し、精密な化学分析を行いながら生育状況調査を行う。また、展示圃を活用して農家向け現地検討会を実施する。						
効果発現年度	■当年度      ■後年度(令和12年度)						
実施方法	■直接実施    □委託    □補助    □負担    □その他 ( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,891		2,764		2,764
		(b) 予算現額	3,891		2,764		2,764
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	0		0		0
		A. 計(b+d)	3,891	0	2,764	0	2,764
	B. 執行済額		2,943		2,285		2,484
	うち交付金充当額		2,354		1,828		1,987
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		75.6%		82.7%		89.9%
予算の状況の説明		・寒地型牧草の沖縄県内各地域に対応した栽培方法を確立するため、令和4年度から新規事業(平成31~令和3年度で実施した自給型畜産経営飼料生産拡大普及推進事業の後継事業)として、寒地型牧草との作付体系の確立等に要する経費を計上した。 ・令和6年度の予算執行率は89.9%であり、主に使用料の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	寒地型牧草マニュアル作成		目標			1回	
		実績			1回		
進捗状況説明		・マニュアルにおいては、令和4・5年度に設置した寒地型牧草栽培の実証展示圃結果をもとに、関係機関の意見を踏まえたうえで、作成した。					
成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R12年度)
	県内6地域に適応した寒地型牧草栽培マニュアル作成	目標				1回	
		実績				1回	
	冬場の自給飼料生産増による畜産経営の負担軽減	目標				1事例	
		実績				1事例	
	【R12成果目標】 令和2年度比54ha増(令和12年度)		目標				54ha増
	【R12成果目標】 沖縄県内全体の畜産経営における年間の飼料コスト低減額36,096千円(作付面積換算) (令和12年度)		目標				△36,096千円
達成状況説明		県内6地域に適応した寒地型牧草栽培マニュアルは、令和7年3月に完成した。また、冬場の自給飼料生産増による畜産経営の負担軽減では、実証展示圃の結果を踏まえて生産コストを算出し、寒地型牧草を栽培することで飼料費を低減する事例が確認された。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・寒地型牧草マニュアルは、4ページ構成となっており、農家だけでなく、栽培指導する職員向けにも作成しているため、簡略化されていない部分がある。</p>	<p>・改善方法は、マニュアルをより簡略化した農家向けの寒地型牧草栽培におけるA4一枚紙リーフレットを作成し、栽培指導の一助とする。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>・寒地型牧草栽培は、マニュアルを活用することで畜産農家に普及推進し、栽培面積を拡大する。</p> <p>・寒地型牧草は、冬期における粗飼料の安定的確保と購入飼料の代替利用を目的に、畜産農家に栽培を普及推進することで、飼料費の低減に努める。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
2,484	2,484	1,987	497	0	0	0
<pre> graph LR     A[沖縄県 交付対象事業費 2,484千円] --&gt; B[需用費 1,769千円]     A --&gt; C[事務費 715千円]     B --- D["(実証展示圃設置用資材等 (種子・肥料等)"]     C --- E["(報償費、旅費、 役務費、使用料及び賃借料)"]   </pre>						
資金の流 れの点 検・費 目・評 価	評価	点検項目	評価に関する説明			
	-	支出先の選定方法は妥当か。				
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算内訳については事務費のみである。予算規模については、各出先機関が執行する事務費として適切であった。			
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。			
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	84	沖縄きのこ生産体制構築事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	3-(7)-ア-④			
担当部課名	農林水産部 森林管理課	事業実施（予定）年度	H31～R6 年度	林産物の生産振興			
事業内容	・県産アラゲキクラゲ品種登録に向けた栽培試験の実施及び栽培マニュアル作成 ・新たなきのこ品目（トキイロヒラタケ等）の市場調査及び候補品目の栽培試験の実施						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度（令和9年度）						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】		R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	9,059		7,084		7,084
		(b) 予算現額	9,059		7,084		7,084
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
	A. 計 (b+d)		9,059	0	7,084	0	7,084
	B. 執行済額		8,835		7,073		7,053
	うち交付金充当額		7,068		5,658		5,643
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率（%）(B/A)		97.5%		99.8%		99.6%
予算の状況の説明		・県外産きのこに依存しない県産きのこの生産体制を構築するため、令和4年度から新規事業（平成31年度～令和3年度で実施した沖縄県産きのこ生産強化事業の後継事業）として、事業実施に係る委託費等を計上した。令和5年度予算について、前年比1,975千円減額となっているのは、研究機関の事務費（非常勤報酬費）を減じたためである。 ・令和6年度予算の執行率は99.6%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	アラゲキクラゲの栽培試験の実施	目標			1回	1回	
		実績			1回	1回	
	新たなきのこ品目の市場調査	目標			1回	1回	
		実績			1回	1回	
	新たなきのこ品目の選定のための栽培試験	目標			1回	1回	
		実績			2回	2回	
	沖縄県産アラゲキクラゲの品種登録出願書の作成	目標		1式	-	1式	
		実績		0式	-	1式	
アラゲキクラゲ栽培マニュアル（骨子）の作成	目標		1マニュアル（骨子）	-	-		
	実績		1マニュアル（骨子）	-	-		
進捗状況説明	・バガスを活用したアラゲキクラゲの栽培試験を1回実施し、当該栽培手法を現場に適用する際の課題等を把握した。 ・令和4年度～令和5年度にかけて選抜及び栽培試験を行った成果を基に、アラゲキクラゲ品種登録申請に向けて琉球大学と調整を行い、令和6年度に品種登録出願中。 ・受注者、生産者及び試験研究機関と連携し、アラゲキクラゲ品種登録後の種菌の拡大培養、管理が可能な事業者について、情報収集を行った。 ・県内生産きのこ類の流通を担う一次卸売業者に、新たなきのこ品目（フクロタケ等）に係る流通上の課題や需要等についてヒアリングを1回実施し、目標値を達成した。 ・フクロタケ等の栽培に関する情報収集及び栽培試験を1回以上実施し、目標値を達成した。						
成果目標（指標）及び達成状況	R6成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R9年度）
	①栽培マニュアル（素案）の作成	目標		1マニュアル（骨子）	1マニュアル（素案）	1マニュアル（案）	
		実績		1マニュアル（骨子）	1マニュアル（素案）	1マニュアル（案）	
	②新規生産品目の選定（1品目）	目標		-	1品目	1品目	
		実績		-	1品目	1品目	
	品種登録出願	目標		1申請	-	1申請	
		実績		0申請	-	1申請	
【R9成果目標】 県内のきのこ生産量	目標		-	-	-	1,433t	
達成状況説明	・受注者及び試験研究機関が行ったアラゲキクラゲの栽培試験により得られた知見を栽培マニュアル（案）として取りまとめ、目標を達成した。 ・受注者及び試験研究機関と連携した情報収集、検討委員会での有識者との意見交換により、新たな品目として2品目（フクロタケ、トキイロヒラタケ）を選定し、目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>品種登録後に、当該種菌を管理していく事業者(技術者)及び施設が必要である。</p>	<p>種菌の管理については県森林資源研究センターでも行いつつ、琉球大学や関連事業者と継続して調整を行っていく。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>品種登録後の種菌について、管理及び拡大培養が可能な県内の試験研究機関、企業、事業者等の情報収集を実施し、管理・配布体制を検討する。</p>		

<b>資金の流れ</b> (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
7,053	7,053	5,643	1,410	0	0	0
<pre>           graph LR             A[沖縄県 交付対象事業費 7,053千円] --&gt; B[委託料 7,042千円]             A --&gt; C[旅費 11千円]             B --&gt; D["(財)沖縄県環境科学センター 7,042千円 令和6年度 沖縄きのこ生産体制構築事業委託業"]             D --&gt; E[委託料 1,210千円]             D --&gt; F[事業費、事務費 5,832千円]             E --&gt; G[琉球大学]             G --- H["バガス等非木質系資材を 活用したアラゲキクラゲ 栽培技術の検討"]           </pre>						
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目			評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。			○受託事業者は、企画提案型プロポーザル方式により選定したため、妥当であったと考える。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。				
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。			○予算費目、使途については、事業報告書等を精査し、適正であることを確認した。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	86	サンゴ礁漁業におけるSDGsブランド化推進事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）		3-(7)-ア-⑥		
			資源管理型沿岸漁業の振興				
担当部課名	農林水産部 水産課	事業実施（予定）年度	H24～R8	年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-1-(6)	
事業内容	<p>①県内各産地における資源管理の重要対象種について、持続可能性を科学的に評価し、資源管理施策へ反映する。</p> <p>②これらの対象種について、持続可能性を付加価値としたブランド認証や販路拡大による流通促進をすることで、本県における資源管理の推進と高付加価値化を両立させる。</p>						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度（R9年度）						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】		R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,403		22,457		24,922
		(b) 予算現額	11,403		22,790		25,536
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	333	0	614
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計 (b+d)	11,403	0	22,790	0	25,536
	B. 執行済額		8,748		17,801		23,738
	うち交付金充当額		6,999		14,241		18,990
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率（%）(B/A)		76.7%		78.1%		93.0%
予算の状況の説明		執行率は93.0%であり、主に委託料の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	① 重要対象種の持続可能性を科学的に検証（当該水産物の成長、成熟の評価、管理実行による将来資源量の推定など）すると共に、漁協や漁業者と協働で資源管理施策体制を構築する（水技セ：研究費、漁協：補助等）。	目標		評価のための調査の実施	資源量推定の調査の実施	資源管理対象種の調査の実施	
		実績		評価のための調査の実施	資源量推定の調査の実施	資源管理対象種の調査の実施	
	② 科学的な評価をもとに、ブランド認証を進めると共に、持続可能を付加価値として販路拡大を図る（民間：委託費）。	目標		情報収集・整理	認証支援に向けた調整	認証スキームの構築	
		実績		情報収集・整理	-	認証スキームの構築	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源管理対象魚種の資源量推定に関する調査を実施した。</li> <li>・県独自の水産エコラベル認証制度の設立に向け、学識経験者、県、漁業団体から成る検討会で認証スキームを審議し、概ね制度内容を固めることができた。</li> </ul>						
成果目標（指標）及び達成状況	R6成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R9年度）
	・評価対象種2魚種を特定し、資源評価報告書を作成する（水技）。	目標		計画立案（2件以上）	報告書（2件）	報告書（2件）	
		実績		計画立案（2件）	報告書（2件）	報告書（2件）	
	・認証取得事業への応募（2団体）（委託）。	目標		報告書の提出（1件）	団体の応募（2件）	団体の応募（2件）	
		実績		報告書を提出（1件）	-	関係団体ヒアリング（4件）	
	・プロモーション候補魚種2種について、販路拡大に向けた売り込み先候補を特定する（委託）。	目標		-	-	候補魚種の販路調査（2種）	
		実績		-	-	候補魚種の販路調査（3種）	
【R9成果目標】SDGsブランド水産物（の生産額）が沿岸魚類水揚げ金額全体の5%を占める		目標		-	-	-	SDGsブランド水産物の割合5%
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源管理評価対象魚種2種について、資源量推定に関する報告書を2件作成した。</li> <li>・県独自の水産エコラベル認証制度の開始に向け、資源管理を実施する関係漁業団体（4漁協）にヒアリング調査を行い、制度内容に反映した。</li> <li>・認証制度開始後のブランディングに係る基礎知見を得るために、認証候補魚種3種について、販路先にテストマーケティングとアンケート調査を実施した。</li> </ul>						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認証制度の開始にあたり、具体的な申請・認証手続きを定めた要綱・要領等が必要である。</li> <li>・認証制度や資源管理に関する取組について、県全体に周知する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認証に関する要綱・要領を作成するとともに、認証制度の流れ、申請及び審査方法について、申請者側にわかりやすい資料を準備する。</li> <li>・県、漁業関係団体、受託者で連携しながら、効果的なプロモーション方法を検討する。</li> </ul>
	<b>今後の取り組み方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認証に関する各種資料を県ホームページに掲載し、円滑な申請・審査体制を構築する。</li> <li>・これまでに実施したアンケート調査を基に、消費者や取扱業者を含めた県全体に、水産資源の現状、認証制度、認証を受けた水産物等について、プロモーションを実施する。</li> </ul>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費										
23,738	23,738	18,990	4,748	0	0	0										
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 25%;"> <p style="text-align: center;">沖縄県</p> <p style="text-align: center;">交付対象事業費 23,738千円</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 30%; margin-left: 20px;"> <p style="text-align: center;">調査研究費 水産海洋技術センター (7,326千円)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 30%; margin-left: 20px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>報酬</td><td style="text-align: right;">4,277千円</td></tr> <tr><td>職員手当等</td><td style="text-align: right;">1,627千円</td></tr> <tr><td>共済費</td><td style="text-align: right;">833千円</td></tr> <tr><td>旅費</td><td style="text-align: right;">353千円</td></tr> <tr><td>需用費</td><td style="text-align: right;">236千円</td></tr> </table> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 25%;"> <p style="text-align: center;">委託料 株式会社 流通研究所 (16,412千円)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 30%; margin-left: 20px;"> <p style="text-align: center;">認証スキームの構築にかかる検討会の開催、認証候補団体のブランディング支援等</p> </div> </div>							報酬	4,277千円	職員手当等	1,627千円	共済費	833千円	旅費	353千円	需用費	236千円
報酬	4,277千円															
職員手当等	1,627千円															
共済費	833千円															
旅費	353千円															
需用費	236千円															

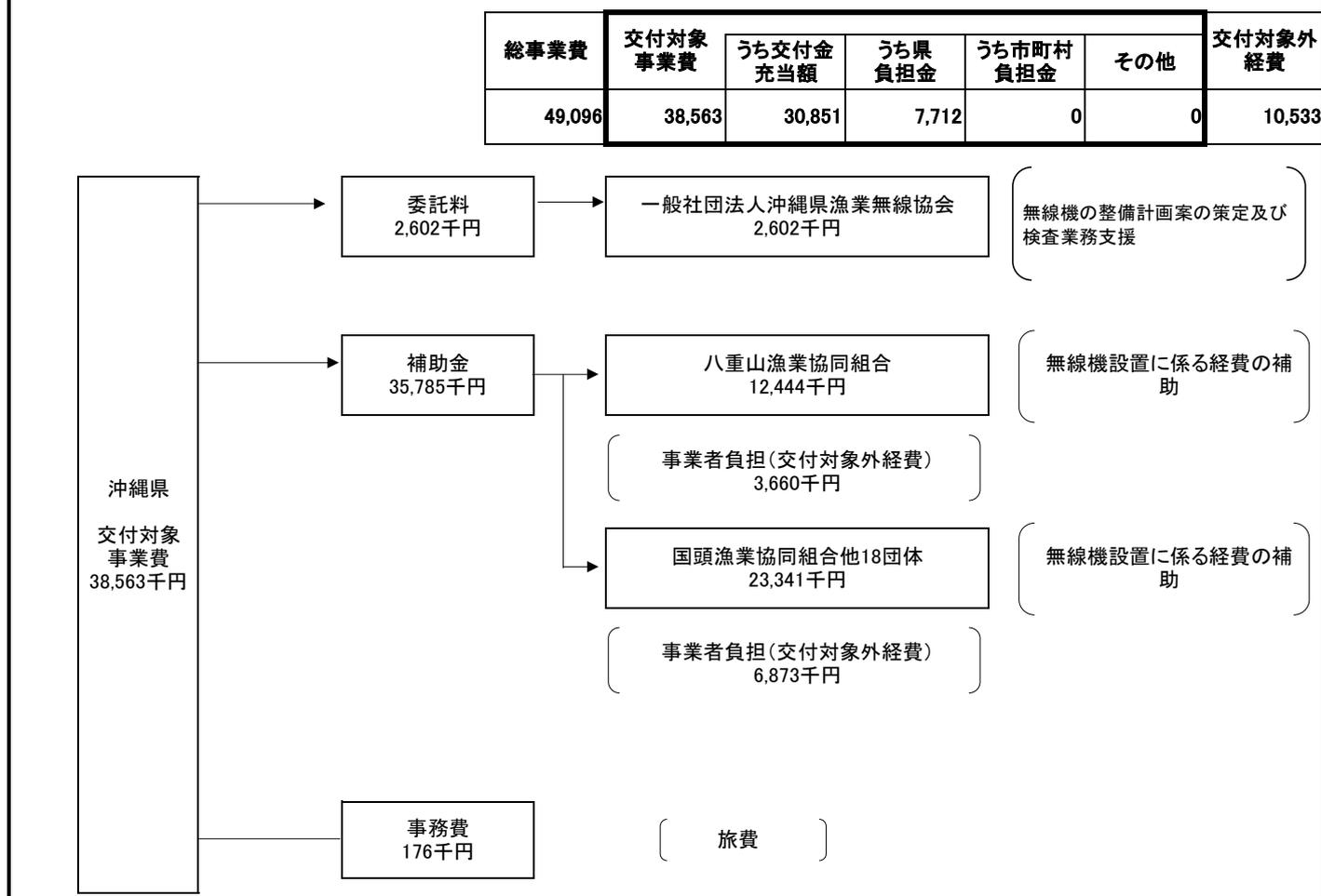
資金の流 れ・費 目 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委託事業者は、企画提案プロポーザルを基に事業の内容によって選定したため、妥当であったと考える。</li> <li>○費目・使途については、業務報告書・証憑書類等を検査し、適正であることを確認した。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	87	沖合操業の安全確保支援事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ア-⑥				
				資源管理型沿岸漁業の振興				
担当部課名	農林水産部 水産課	事業実施 (予定)年度	H24~R7	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	漁業者の安全操業を確保し、緊急時の迅速な通報体制を整備するため、広域通信が可能な無線機の設置に対する支援を行う。							
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和7年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )							
予算額・ 執行額 【単位:千円】	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	41,571	0	41,569	0	50,706	
		(b) 予算現額	41,571	0	41,236	0	49,864	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 333	0	▲ 842	
		(d) 前年度繰越額		0	0	0		
		A. 計(b+d)	41,571	0	41,236	0	49,864	
	B. 執行済額		37,795	0	35,718	0	38,563	
		うち交付金充当額	30,236	0	28,574	0	30,851	
	C. 次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		90.9%		86.6%		77.3%	
	予算の状況の説明	・執行率は77.3%であり、主に補助事業者の入札残により、補助金の執行残が発生したことによるもの。						
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況					
	長距離用無線機を年間50台設置する。 (25w無線機47台、150w無線機3台)		目標	44台	42台	42台	50台	
			実績	44台	41台	37台	39台	
	進捗状況説明	・39隻の漁船へ無線機を設置した。 ・150w無線機の納期が長期化したこと等による辞退があり、目標未達成となっている。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R7年度)	
	長距離用無線機の整備率5ポイント増(R5: 66%→R6:71%)		目標		64%	67%	71%	80%
			実績		63%	66%	70%	-
	【R7成果目標】 沖縄県の沖合漁業の生産額		目標	-	-	-	-	106.5億円
	達成状況説明	・成果目標である長距離用無線機整備率については、目標5ポイント増(R5:66%→R6:71%)に対し、実績4ポイント増(R5:66%→R6:70%)で、目標を概ね達成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・近年、無線機の納期が長くなっており、特に150wは受注生産となり、事業期間内での納品が難しい事例が生じている。</p>	<p>・補助事業者の発注期間を確保できるよう、補助金の交付決定や無線機委託業務の契約スケジュールをさらに早める必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・補助金の交付事務及び委託業務の契約手続きを迅速に行う。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ・費目 点検評価	○ 支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は、無線機を使用した安全操作指導等の業務に精通している無線取扱業者であり、随意契約により締結した。</p> <p>○漁業団体への補助金については、交付要綱で補助率を定めており、負担関係は妥当であった。</p> <p>○費目・使途については事業目的の達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において、現場確認及び支出等に関する書類により確認し、適正であった。</p>
	○ 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○ 受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○ 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	88	県産ウニ復活プロジェクト事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ア-⑤		
					沖縄型のつくり育てる漁業の振興		
担当部課名	農林水産部 水産課	事業実施 (予定)年度	R5~R9	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)	
事業内容	県内で天然資源が枯渇状態にある介類(シラヒゲウニ、シャコガイ類等)の持続的利用のため、完全養殖の技術開発と実用化、大量生産手法の開発に向けた条件整備を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度( R10年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】	予算の状況	(a) 当初予算額			11,958		11,494
		(b) 予算現額			11,958		11,722
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	228
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計 (b+d)	0	0	11,958	0	11,722
	B. 執行済額				11,899		11,324
	うち交付金充当額				9,519		9,059
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率 (%) (B/A)				99.5%		96.6%
	予算の状況の説明		執行率は96.6%であり、概ね計画的に執行できた。				
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	完全養殖の技術開発と実用化 (養殖試験及び養殖用配合飼料の開発)	目標			試験区設定 8試験区	試験区設定 8試験区	
		実績			試験区設定 8試験区	試験区設定 8試験区	
	大量生産手法の開発 (種苗生産の技術開発と効率化)	目標			生産効率化 試験3回	生産効率化 試験4回	
実績				生産効率化 試験3回	生産効率化 試験4回		
進捗状況説明	・養殖用配合飼料の開発については、デンブン由来の配合飼料に色揚げ用のベータカロテンを添加し種類別濃度別の8試験区を設定して試験を実施できた。 ・種苗生産効率化試験は、種苗生産条件を変え、目標のとおり4回実施できた。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R10年度)
	介類の種苗生産数 (過去5年平均35万匹との比較)	目標			年間2%増加 35.7万匹	年間4%増加 36.4万匹	
		実績			25.1万匹	27万匹	
	【R10成果目標】 介類の種苗生産数 (過去5年間平均35万匹の10%以上増加)		目標				38.5万匹 以上
	達成状況説明	・介類種苗生産数の目標である36.4万匹について、ウニの生産は15.7万匹と順調だったが、平年より水温が低かったことでシャコガイの生産が遅れ出荷サイズに達しなかったことにより、目標を達成できなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウニ種苗生産における疾病対策のため、浮遊幼生飼育時の精密ろ過海水使用、中間育成時の紫外線照射海水による中間育成を引き続き実施する。</li> <li>・シャコガイ類の養殖歩留まり向上のため、配付種苗の大型化に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウニの採苗率向上に向けた新たな初期餌料の開発や、種苗取り上げ時の生残率向上のための技術開発を図る。</li> <li>・シャコガイ類の種苗生産を早めることによる成長促進や、種苗を大量に生産して余剰種苗を次年度まで保有することで配付種苗の大型化を図る。</li> </ul>

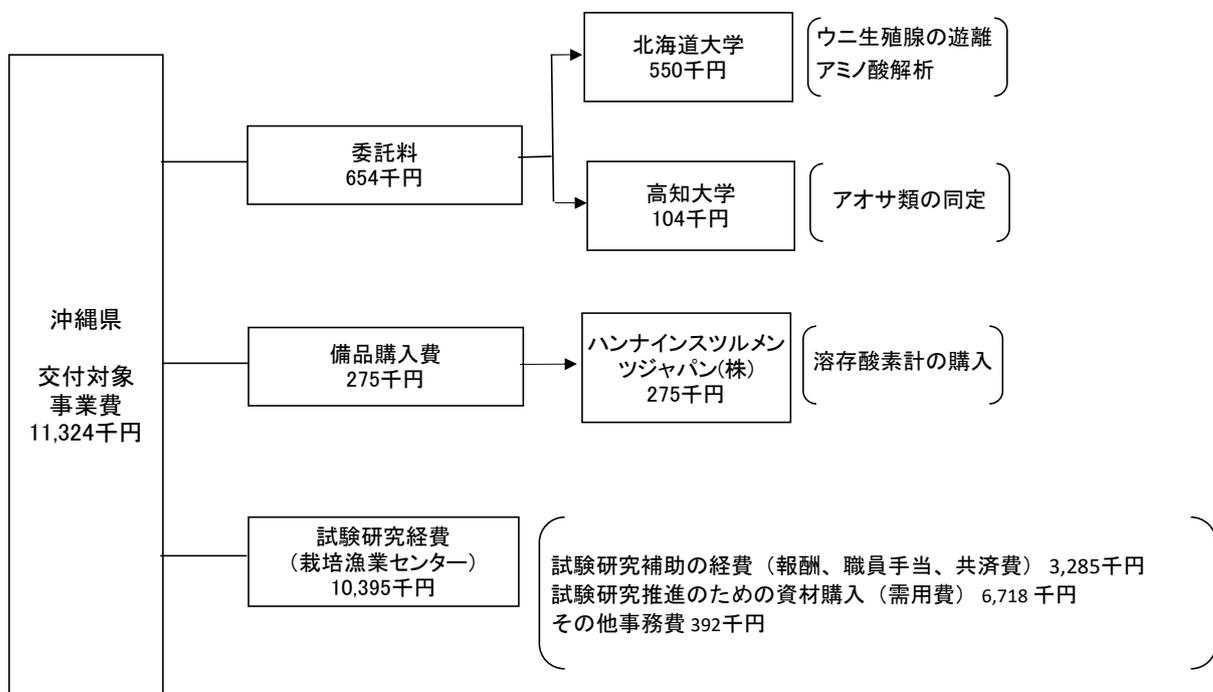
**今後の取り組み方針**

- ・今年度はウニの中間育時に疾病が発生しなかったことで、順調に生産を実施できたことから、前年度との中間育成手法の違いを検証すると共に、引き続きウニの疾病防除に努める。
- ・シャコガイ類大量生産のため、ウニ及び魚類の生産は大型水槽を使用し、シャコガイ類の生残率向上に向けて取り組む。
- ・ウニ用配合飼料の開発に向けて、原料の低コスト化に向けた廉価原料の探索やウニの身入り改善(身の量、身の味、身の色)に取り組む。

**資金の流れ**

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
11,324	11,324	9,059	2,265	0	0	0



資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○複数業者からの見積書により支出先を選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	67	地域農林水産物活用支援事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	3-(7)-ウ-③			
担当部課名	農林水産部 流通・加工推進課	事業実施（予定）年度	H30～R6 年度	新沖縄振興基本方針該当箇所			
事業内容	県産農林水産物を活用した「売れる商品」づくりに継続的に取り組むことのできる事業者の育成および他産業との連携強化支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度（    年度）						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（    ）						
予算額・執行額【単位：千円】		R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	29,768		29,076		29,076
		(b) 予算現額	29,768		29,076		26,614
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	▲ 2,462
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計 (b+d)	29,768	0	29,076	0	26,614
	B. 執行済額		27,665		25,449		24,333
	うち交付金充当額		22,132		20,359		19,466
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率（%）(B/A)		92.9%		87.5%		91.4%
予算の状況の説明		・執行率は91.4%であり、主に補助金の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	個別支援事業者数	目標	10事業者	5事業者	10事業者	10事業者	
		実績	12事業者	11事業者	10事業者	10事業者	
	アシスタント支援件数	目標			10件	10件	
		実績			10件	10件	
	加工品グランプリの開催	目標	1回	1回	1回	1回	
		実績	1回	1回	1回	1回	
	販路開拓のための商談会の開催	目標			1回	1回	
		実績			1回	1回	
商品改良に係る経費補助	目標			5件	5件		
	実績			6件	5件		
【R4活動目標】他産業との連携	目標		2件				
	実績		6件				
【R3活動目標】研修会	目標	5回					
	実績	6回					
進捗状況説明	・公募によって10事業者を選定し、支援事業者として、各々の課題に応じた専門家らによる個別研修をリアルとオンラインで計4回程度実施した。また、各事業者へ取組の進捗の管理やサポートを行うアシスタントを配置して伴走支援を行った。 ・1月に加工品グランプリを開催した。審査員として県内外のバイヤーを招聘し、出展事業者による商品PRの場を設けることで商品の販路拡大に取り組んだ。 ・支援事業者として選定された10事業者のうち、5事業者に対して商品改良に係る経費補助を行った。						
成果目標（指標）及び達成状況	R6成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（〇〇年度）
	商談会参加事業者数：5件	目標			5件	5件	
		実績			10件	10件	
	【R4成果目標】商談等成立件数	目標		3件			
		実績		5件			
達成状況説明	加工品グランプリへのバイヤー招聘等を通じて商談機会を提供し、10事業者がプレゼンテーションを行うなど商品PRを行い商談を行った。この他にも、個別指導を行う専門家からの紹介や補助事業の活用により、県内外の様々な商談会に参加している。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業化の取り組みには、生産から加工、流通までの専門的な知識や経験などの「ノウハウ」が必要であるが、事業者単体では持続的、一貫した取り組みを維持することが困難な場合がある。</li> <li>・単年度限りの支援を前提とする現在の事業スキームでは、商品のブラッシュアップの支援が中心とならざるを得ず、販路開拓の支援が十分とは言えない状況がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業化の取り組みは、事業後の持続性やその波及効果を高めるため、産業間の連携についても意識しながら支援を行う必要がある。</li> <li>・県の普及機関や市町村、各地の商工会においても支援を行っていることから、これら関係機関との連携をより緊密に行うことで取組効果を高めることが期待できる。</li> <li>・全国で勝負できるような優れた商品の販路開拓については、中小事業者にとってよりハードルの高い県外向けの支援を充実させることで、販路の多角化を図ることも必要。</li> </ul>

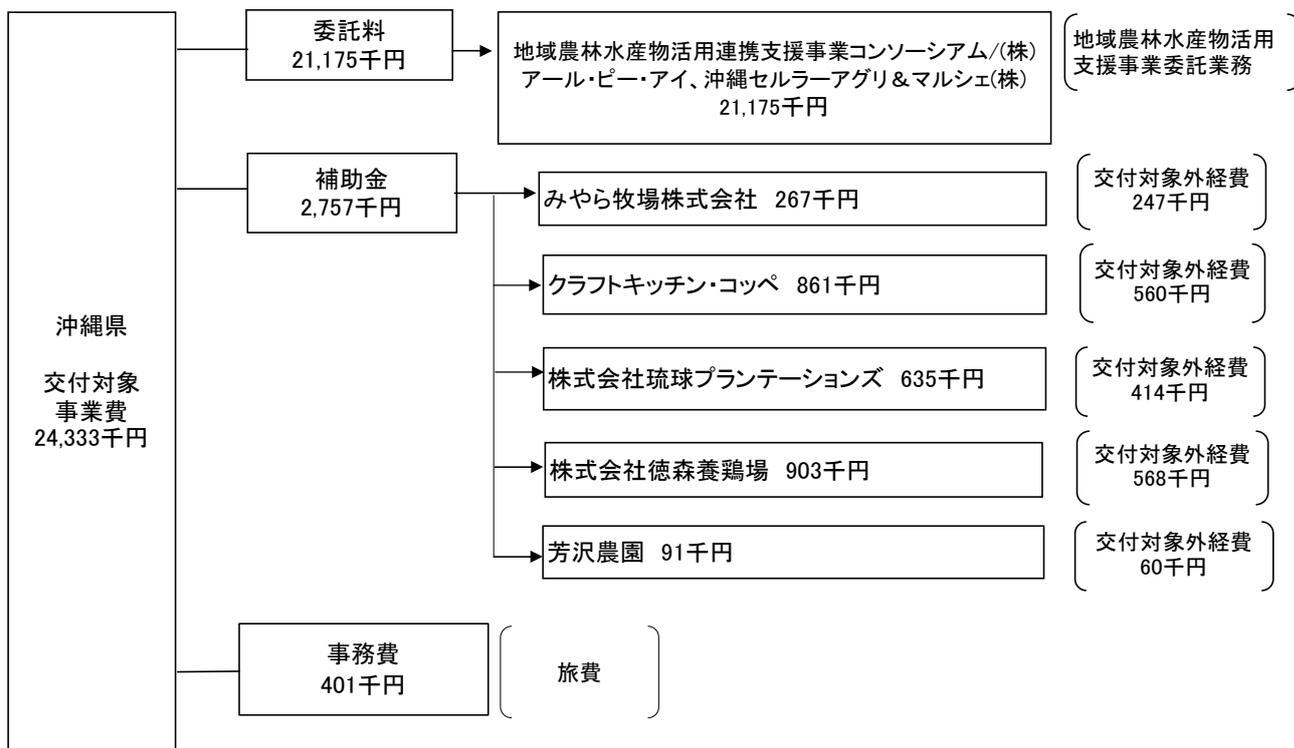
**今後の取り組み方針**

- ・事業者の課題に応じて専門家による指導(個別相談、ハンズオン支援等)を行い、商品開発に関する技能を習得するための研修会やテストマーケティング等の販路開拓を通じて自走化をサポートする。
- ・ブラッシュアップから販路開拓まで2年間続けた支援を可能とすることで、改良した商品のテストマーケティングや商談機会の提供など商品改良から出口対策までを一貫して丁寧に支援していく内容へ改善を図る。
- ・県の普及機関や市町村との連携を密に行い、事業実施中及び事業終了後も見据えた事業者へのサポート体制を構築する。

**資金の流れ**

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
26,182	24,333	19,466	4,867	0	0	1,849



資金の使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を考慮した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助事業者の自己負担率は1/3であり、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については事業完了検査の際に帳簿等を確認し、事業目的に合致していることを確認しており、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	68	農林水産物条件不利性解消事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ウ-①		
担当部課名	農林水産部 流通・加工推進課	事業実施 (予定)年度	H24~R13	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	III-1-(6)	
事業内容	本土との直接的結末点をもたない構造的な地理的不利性による取引条件の抜本的な改善を図るため、①他産地との価格形成に関する競争条件の平準化を図るための輸送費の補助、②北部・離島地域における条件不利性の改善を図るため域外出荷コストの輸送費相当分を補助、③持続可能な流通構造の確立に向けてモーダルシフトの促進を図るための必要な措置を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,178,055		2,168,978		1,914,978
		(b) 予算現額	2,068,055		1,994,978		1,851,978
		(c) 増減額(b-a)	▲ 110,000	0	▲ 174,000	0	▲ 63,000
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	2,068,055	0	1,994,978	0	1,851,978
	B. 執行済額		1,569,707		1,733,312		1,509,961
	うち交付金充当額		1,255,766		1,386,650		1,147,969
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		75.9%		86.9%		81.5%
予算の状況の説明		補助事業(流通条件環境改善対策)の申請者が当初見込みを下回ったこと等により、補助金の減額補正を行った。 執行率は81.5%であり、天候不良等や県外需要の減少等により出荷量が減少したことや、委託事業や流通条件環境改善対策事業が事業計画変更や節減等により当初の見込みを下回った。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	①県産農林水産物の県外出荷量(64,868トン)のうち船舶輸送量(34,250トン)	目標	60,000トン	32,800トン	33,505トン	34,250トン	
		実績	47,497トン	30,232トン	28,256トン	26,713トン	
	②県産農林水産物の県外出荷量(64,868トン)のうち(13,000トン)	目標	15,000トン	12,800トン	12,900トン	13,000トン	
		実績	11,874トン	6,270トン	13,454トン	13,552トン	
	③事業体アドバイザー派遣支援(3事業体)	目標		3事業体	3事業体	3事業体	
		実績		1事業体	1事業体	0事業体	
	④地域アドバイザー派遣支援(3市町村)	目標		3市町村	3市町村	3市町村	
		実績		0市町村	5市町村	0市町村	
⑤幹線共同輸送体制構築支援(5事業体)	目標		5事業体	5事業体	5事業体		
	実績		0事業体	0事業体	0事業体		
⑥幹線コールドチェーン実証モデル支援(2事業体)	目標		2事業体	2事業体	2事業体		
	実績		1事業体	2事業体	1事業体		
⑦地域間輸送体制構築支援(3市町村)	目標		3市町村	3市町村	3市町村		
	実績		0市町村	3市町村	3市町村		
⑧地域コールドチェーン実証モデル支援(3市町村)	目標		3市町村	3市町村	3市町村		
	実績		3市町村	3市町村	3市町村		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①については、天候不良等の影響があり、目標を下回った。</li> <li>・②については、22市町村等に補助金を交付し、出荷団体の輸送費負担の軽減を図った。</li> <li>・③、④については、令和6年度は事業体へのアドバイザー派遣ではなく、輸送費補助事業者に対する計画策定支援を行った。</li> <li>・⑥については、1事業体が令和5年度で事業を終了したため、実証事業を行ったのは1事業体のみとなり、目標を下回った。</li> <li>・⑦、⑧については、離島6市町村(宮古島市2部門、石垣市、伊江村、竹富町、与那国町)から応募があり、各団体において実証事業を開始した。</li> </ul>						

成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (〇〇年度)	
	県外出荷販売額(前年度比)	目標			1.01	1.01	1.02	
		実績			1.04	0.99	0.90	
	船舶輸送比率	目標			64%	65%	66%	
		実績			62%	65%	67%	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外出荷販売額については、R5年度比0.90となっており、目標に届かなかった。</li> <li>・船舶輸送比率については、前年度より増加し、目標を達成した。</li> </ul>							

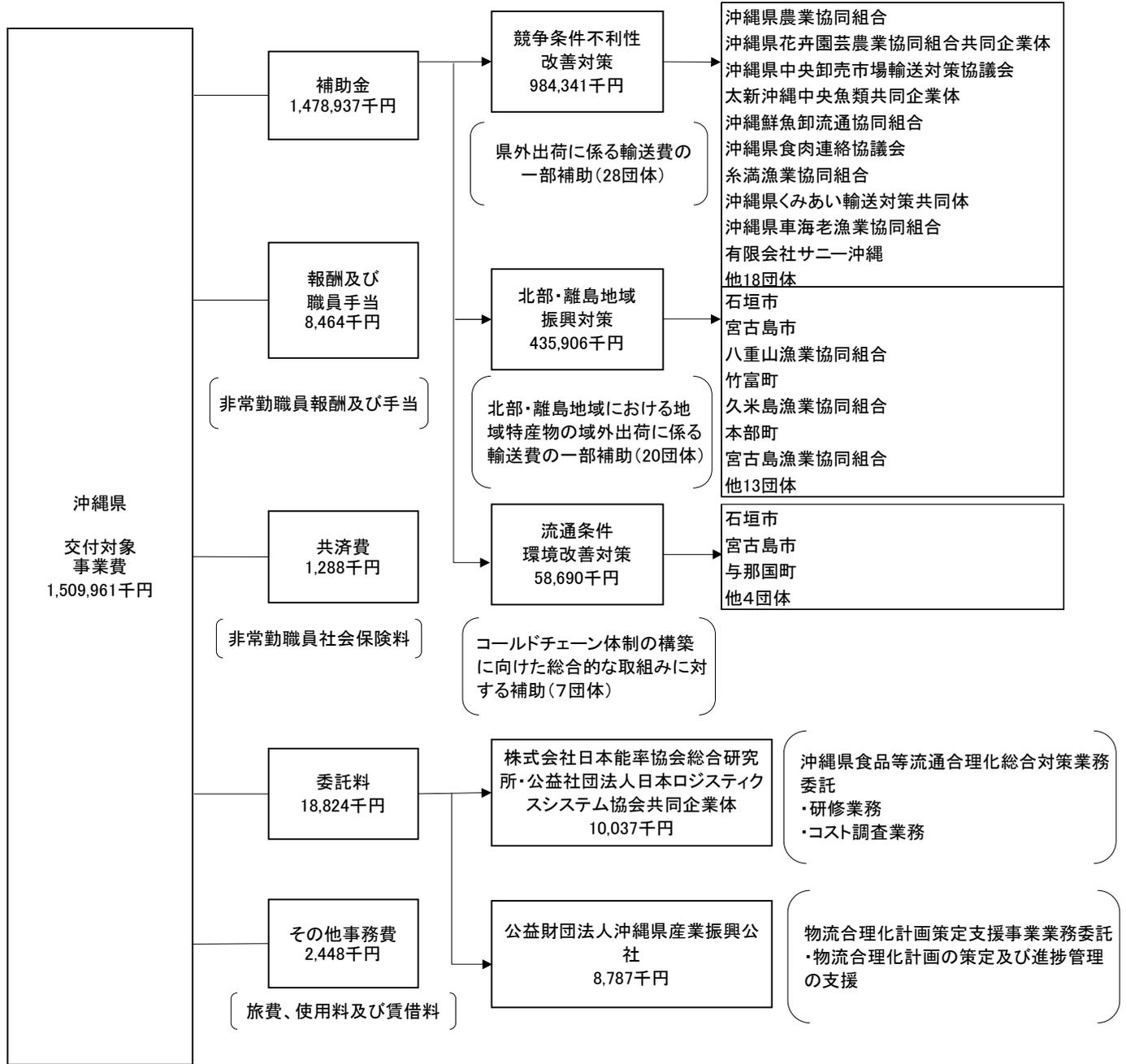
R6-No.68

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は台風や自然災害等の影響により、年間出荷量が不安定となる。</li> <li>・事業の効果的な実施のため、事業者が行う輸送コスト削減の取組を促進する必要がある。</li> <li>・最終的に補助金を活用せずとも県外出荷が定着するような「自走化」に向かうような取組を行うように、事業者に促す必要がある。</li> </ul>
<b>今後の取組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスト低減に向けて、物流合理化の取組が図られるような支援を実施する。</li> <li>・輸送費補助を活用せずとも県外出荷が定着するような「自走化」に向けた環境条件を確保するため、持続可能な物流ネットワークの構築に向けた自立的な取組を支援する。</li> </ul>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
1,509,961	1,509,961	1,147,969	361,992	0	0	0



評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○交付申請書等から補助事業者の要件を確認し、適切に選定した。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助額については、輸送実績を示す書類を確認した。
-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○委託業務先の選定にあたっては、1者は令和4年度に3年計画事業として、もう1者は令和6年度に1年間の事業計画として公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

資金の流れ、費目・使途の点検評価

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	69 県産農林水産物輸出体制構築事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）		3-(7)-ウ-②			
担当部課名	農林水産部 流通・加工推進課	事業実施（予定）年度	H30～R6 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	海外市場における県産農林水産物の輸出体制構築を目指し、定番化プロモーション、ブランディング強化、新規市場調査、輸出産地支援等を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度（    年度）						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（    ）						
予算額・執行額【単位：千円】		R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	26,789		37,718		26,225
		(b) 予算現額	26,789		26,225		26,225
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 11,493	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計 (b+d)	26,789	0	26,225	0	26,225
	B. 執行済額		24,425		22,298		23,188
	うち交付金充当額		19,540		17,838		18,550
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率（%）(B/A)		91.2%		85.0%		88.4%
予算の状況の説明		・執行率は88.4%となっており、執行残の主な理由は、委託事業者において事業費や運営費（人件費等）に残が生じたことによるものである。					
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	ブランディング、PR等実施		目標	3回	5回	5回	5回
			実績	5回	11回	6回	3回
	県産畜産物販売促進活動		目標	4回	4回	4回	4回
		実績	19回	13回	19回	12回	
進捗状況説明		・香港、シンガポール、韓国における県産農林水産物を中心とした認知度向上・定番化促進の取り組みを行い目標数を達成した。 ・県産畜産物については、香港、台湾、タイ及びシンガポールにおいて認知度向上・定番化促進の取り組みを行い目標数を達成した。					
成果目標（指標）及び達成状況	R6成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（〇年度）
	①沖縄からの農林水産物及び加工品の輸出額	目標		33.1億	45.9億	48.9億円	
		実績		48億	39.2億	41.0億円	
	②輸出に結びついた事業者の件数	目標		5件	5件	5件	
		実績		21件	24件	22件	
	③県産畜産物輸出量	目標		398.4トン	254トン	288トン	
		実績		219.6トン	156.8トン	142.2トン	
達成状況説明		①海外のバイヤーを沖縄に招聘して生産地案内を行ったり、海外の量販店やECサイトの構築などにより前年度より輸出額は増加した。一方で目標値には届いていないため、今後は、輸出拡大が見込まれる品目について重点的に支援することで輸出量の増加を図る。 ②上記①のバイヤー招聘などにより現地のインポーターと県内輸出事業者のマッチングを行ったことで輸出に結び付いた。 ③令和4年に本県で発生した鳥インフルエンザの影響により鶏卵の輸出量が大幅に減少したことから、県産畜産物の輸出量は減少傾向にある状況。今後は、鶏卵の輸出量の回復が見込まれるほか、牛肉や加工品の輸出量の増加を見込んでいる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①、②海外市場については他国産や日本の他県との競争も激化しており、県産農林水産物の定番化が厳しい状況にある。また、大ロット輸出が可能な県産農林水産商材が少ない。</p> <p>③畜産物の輸出にあたっては、輸出可能な品目・対象国が限られている。(生鮮豚肉及び鶏肉の輸出ができない状況)</p> <p>④牛肉の輸出にあたっては、相手国からの輸出認定を取得したと畜場だと畜する必要がある。石垣市に所在する八重山食肉センターにおいて、令和7年度中に台湾向け、令和8年度中にシンガポール向けの牛肉輸出認定を取得する予定であり、両国向けの輸出拡大が見込まれる。また、令和7年度中に石垣市—台湾間の定期フェリーが就航予定であり、物流ルートの改善が見込まれる。</p>	<p>①、②他産地との差別化を図るため、さらなる県産農林水産物のブランディング及び商材の掘り起こしが必要である。また、カントリーリスク低減のため、新規市場開拓に向けた輸出先として見込みのある国に対し定番化を目指した取組を行う。</p> <p>③カントリーリスク低減のため、新規市場開拓に向けた調査を行い、輸出先として見込みのある国に対し定番化を目指した取組を行う。家畜伝染病の影響により輸出が停止するリスクの少ない品目について、新規市場開拓や定番化に向けた取組を行う。</p> <p>④輸出対象国の拡大や物流ルートの改善により、輸出拡大が見込まれる品目について重点的に支援することで輸出量の増加を図る。</p>

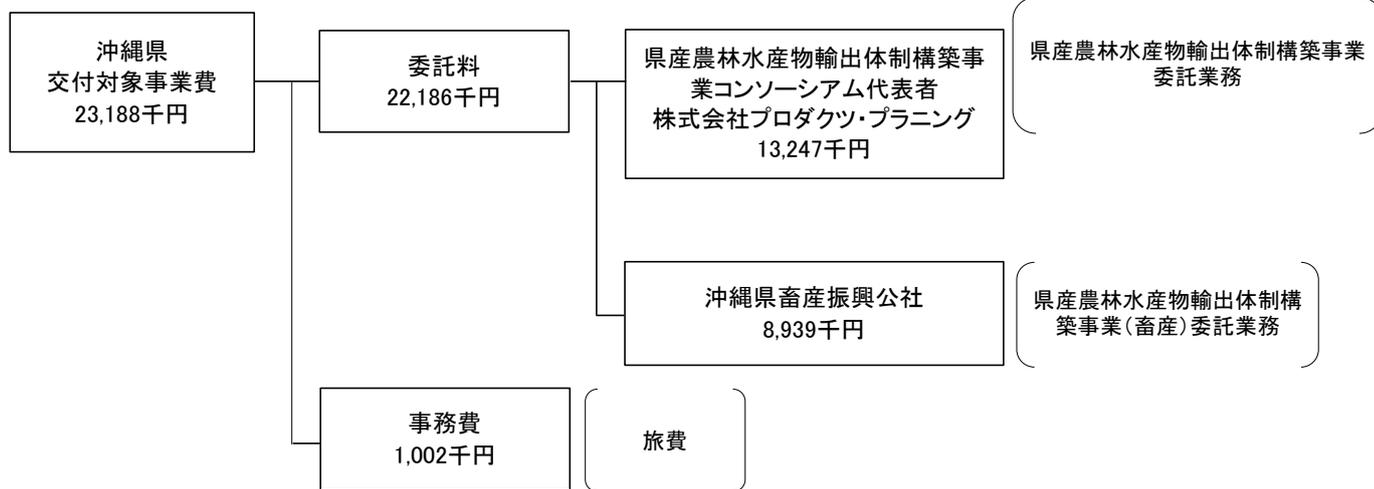
**今後の取り組み方針**

<p>①、②現地(海外)の量販店や大手チェーン店にネットワークを持つ人材と連携し、輸送コストと定番化可能な商品を選別して販路開拓を行うことで輸出促進を図る。</p> <p>③新規市場での市場価格や流通経路等の調査、現地販売員の指導、消費者へのPR活動を行う。家畜伝染病の影響により輸出が停止するリスクの少ない加工品について、重点的に支援することで定番化や輸出量の増大につなげる。</p> <p>④八重山食肉センターの施設改修により、石垣から直接、台湾・シンガポールへ牛肉の輸出が可能となる見込みであることから、同センターから両国向けの牛肉の輸出拡大に向けた取組を強化する。牛肉の販路拡大にあたっては、比較的需要の少ない部位(ロイン系以外)についても販路拡大を図る必要があるため、カット指導や部位ごとのメニュー提案なども合わせて実施する。</p>
--

**資金の流れ**

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
23,188	23,188	18,550	4,638	0	0	0



資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託業務先の選定にあたっては、県産農林水産物輸出体制構築事業コンソーシアム代表者株式会社プロダクツ・プランニングは公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を助案した上で選定しており、また、沖縄県畜産振興公社は組織、実績、知識等を助案した上で随意契約により選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>また、沖縄県畜産振興公社は組織、実績、知識等を助案した上で随意契約により選定しており、妥当であったと考えている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	75	分蜜糖振興対策支援事業費	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ウ-⑤			
				製糖業の経営基盤強化と高度化推進			
担当部課名	農林水産部 糖業農産課	事業実施 (予定)年度	H24~R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	さとうきび生産農家の収入を確保するため、分蜜糖製造事業者に対して、気象災害等による製造コスト上昇分の支援、製糖設備の整備支援等を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(7年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	1,184,108		754,010		1,031,805
		(b) 予算現額	795,224		889,249		1,175,076
		(c) 増減額(b-a)	▲ 388,884	0	135,239	0	143,271
		(d) 前年度繰越額					
	A. 計(b+d)		795,224	0	889,249	0	1,175,076
	B. 執行済額		794,596		888,879		1,174,864
	うち交付金充当額		635,677		711,103		939,891
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.9%		100.0%		100.0%
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象災害等影響緩和対策において、当初計画の生産見込数量に対し、さとうきびの生産実績が減少したことによる支援額の増加等により予算現額が増となった。</li> <li>・執行率は100.0%であり、全ての事業を計画通り執行できた。</li> </ul>					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
	①気象災害等影響緩和対策	目標	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
		実績	9工場	9工場	8工場	9工場	
	②製造合理化対策	目標	3工場	5工場	5工場	5工場	
		実績	4工場	4工場	5工場	4工場	
	③離島条件格差是正補填対策	目標	2工場	2工場	2工場	2工場	
		実績	1工場	2工場	2工場	2工場	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象災害等影響緩和対策については、気象災害等による影響のため、分蜜糖製造コストが増高し対策を要した製糖工場は8社9工場となった。</li> <li>・製造合理化対策については、4工場で実施し、全て年度内に完了することができた。</li> <li>・離島条件格差是正補填対策については、当初計画どおり小規模離島の2工場で実施となった。</li> </ul>						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R7年度)
	負担軽減による経営の安定化により、製糖工場の操業が可能となる分蜜糖工場	目標	-	-	-	9工場	9工場
		実績	-	-	-	9工場	-
	製糖設備の部分更新による操業体制の安定化により、適正時期での操業開始を達成	目標	-	-	-	9工場	9工場
		実績	-	-	-	9工場	-
	達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・負担軽減による経営の安定化を図ることにより、操業が可能となる分蜜糖工場は、9工場となり、目標を達成できた。</li> <li>・製糖設備の部分更新による操業体制の安定化により、9工場で適正時期での操業開始という、目標を達成できた。</li> <li>・分蜜糖製造事業者に対し、気象災害等影響緩和対策、製造合理化対策等の支援を過年度から継続して実施した結果、製糖期間を通じて分蜜糖製糖工場の適正操業が図られており、さとうきび生産農家の経営安定及び地域社会の維持・形成に寄与している。</li> </ul>					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施主体である(公社)沖縄県糖業振興協会や分蜜糖製造事業者、関係団体等と連携し、当初計画の調整・精査、定期的な執行状況の把握等、事業執行体制の強化に取り組んだことにより、円滑かつ適正な事業執行が図られた。</li> <li>分蜜糖製造事業者は、製糖工場の適正操業を図るため、製糖操業終了毎に設備のメンテナンスや老朽化に伴い使用限界にある設備の更新等、継続した設備投資が必要不可欠である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な事業執行及び事業効果の早期発現に向けて、(公社)沖縄県糖業振興協会、分蜜糖製造事業者、関係団体等と連携し、当初計画の調整・精査、執行状況の定期的な把握等、引き続き、事業執行体制の強化に努める必要がある。</li> <li>分蜜糖製造事業者は、製糖操業終了後の5月～11月の間に設備のメンテナンスや整備等を完了し、次期製糖期に備える必要があり、設備整備の可能な期間が限られていることから、製造合理化対策については、引き続き、事業の早期着手に取り組む必要がある。</li> </ul>

今後の取り組み方針

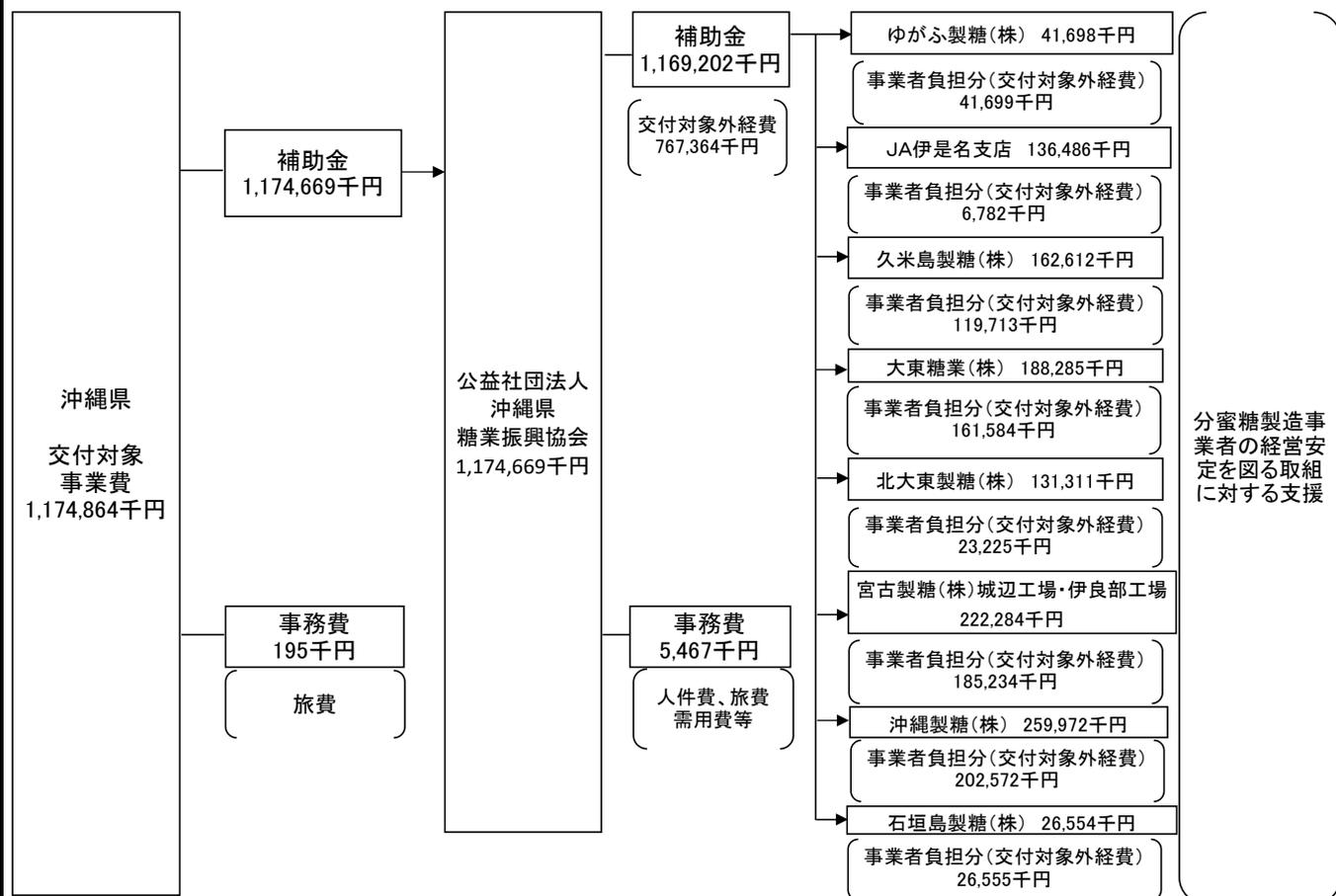
・気象災害等影響緩和対策、離島条件格差是正補填対策については、(公社)沖縄県糖業振興協会と支援額に関する協議を早期に行い、分蜜糖製造事業者の経営安定に資するよう、早期執行に努める。

・製造合理化対策については、(公社)沖縄県糖業振興協会、分蜜糖製造事業者、関係団体等と連携し、早期の事業着手が可能となるよう、当初計画の十分な調整・精査を行うとともに、定期的に進捗状況の確認を行い、事業完了に遅れが生じないように努める。また、年度内完了が難しい設備整備については、分離発注等効率的な事業執行に向けた検討を行い、実施設計等の調整・協議に時間を要する設備整備については、十分な事前調整を行う。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
1,942,228	1,174,864	939,891	234,973	0	0	767,364



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○(公社)沖縄県糖業振興協会は、さとうきび及び糖業に関する専門的知識を有する組織であり、本事業の事業実施主体として妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○受益者である分蜜糖製造事業者は総事業費の4割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

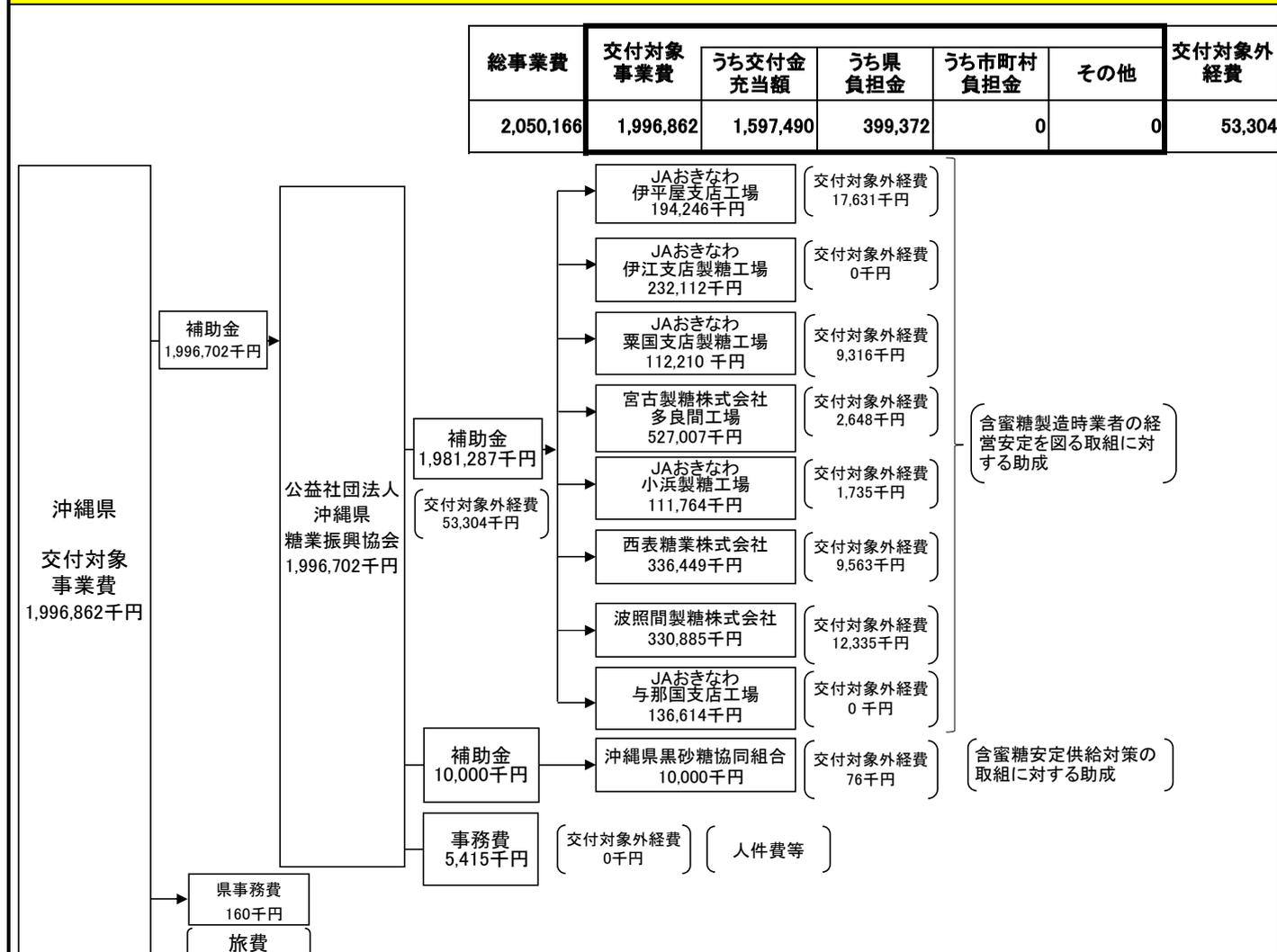
事業番号・事業名	76	含蜜糖振興対策事業費	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ウ-⑤			
				製糖業の経営基盤強化と高度化推進			
担当部課名	農林水産部 糖業農産課	事業実施 (予定)年度	H24~R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6) Ⅲ-9		
事業内容	さとうきび生産農家の収入を確保するため、含蜜糖製造事業者に対し、含蜜糖製造コストの不利補正、製糖設備整備、安定供給等に対する支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	1,667,456		2,398,248		1,974,663
		(b) 予算現額	2,544,079		2,254,009		1,999,015
		(c) 増減額(b-a)	876,623	0	▲ 144,239	0	24,352
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	2,544,079	0	2,254,009	0	1,999,015
	B. 執行済額		2,543,799		2,239,186		1,996,862
	うち交付金充当額		2,035,039		1,791,349		1,597,490
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%		99.3%		99.9%
予算の状況の説明		・執行率は99.9%であり、計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	①製造コスト不利補正の対策	目標	8工場	8工場	8工場	8工場	
		実績	8工場	8工場	8工場	8工場	
	②気象災害等影響緩和対策	目標	8工場	8工場	8工場	8工場	
		実績	8工場	8工場	8工場	8工場	
	③製造合理化対策	目標	4工場	2工場	6工場	3工場	
		実績	4工場	2工場	6工場	3工場	
	④安定供給対策	目標	8工場	8工場	8工場	8工場	
		実績	8工場	8工場	8工場	8工場	
進捗状況説明	・県内含蜜糖製造事業者8工場に対して、生産条件不利補正対策、気象災害等影響緩和対策、製造合理化対策等の取組に対する支援を行った。 ・製造合理化対策は、3工場で実施し、工場の安定操業に寄与している。 ・含蜜糖安定供給対策では、含蜜糖製造に関する課題解決、品質検査指導、研修等を行い、製糖技術者の育成を図る取組を実施した。 ・事業の早期執行を継続して実施し、生産条件不利補正対策、気象災害等影響緩和対策等の支援を行った結果、含蜜糖製造事業者の経営安定に寄与している。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (H29年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R7年度)
	全量買い入れを行った含蜜糖製糖工場	目標	-	8工場	8工場	8工場	-
		実績	-	8工場	8工場	8工場	-
	【R7成果目標】 全量買い入れを行った含蜜糖製糖工場		目標				8工場
	達成状況説明	・全量買い入れを行った含蜜糖製糖工場は、実績が8工場となり、目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①含蜜糖製造事業者は、製糖終了後の4月～11月頃間に次期製糖期に向けた設備整備等を行っていることから、事業着手時期が遅れると含蜜糖製造事業者の資金繰り悪化や設備整備の遅れによる次期製糖開始の遅れにつながり、さとうきび生産者や製糖事業者の経営圧迫が懸念される。</p> <p>小規模離島で行われている含蜜糖の生産は、地域の農業・経済を支える重要な産業となっている。一方、含蜜糖の生産は、地理的、自然的条件等が不利なことから、安定生産に課題を抱えており、支援体制の継続が必要である。</p> <p>②成果目標である全量買入れを行った含蜜糖製糖工場について、R6年度は目標が達成された。今後もさとうきびの増産に対応できるよう、含蜜糖製造事業者の経営安定、黒糖の品質向上に向けた継続した取り組みが必要である。</p>	<p>①計画的な事業執行及び事業効果の早期発現に向け、継続的に関係団体との連携に取り組み、事業執行体制の強化を図る必要がある。工場の安定操業により、含蜜糖地域の生産農家が安心してさとうきびを生産できる状況を確保していく必要がある。</p> <p>②今後も成果目標達成のため、さとうきびの増産に対応できるよう、含蜜糖製造事業者の経営安定、黒糖の品質向上に向けた継続した取り組みが必要である。</p>

**今後の取り組み方針**

- ①含蜜糖地域のさとうきび農家と含蜜糖製造事業者は、車の両輪のような関係にあり、これにより、地域経済・社会の維持が図られている。工場の適正操業が行われることにより、さとうきびの適期収穫や適期栽培管理が行えるという観点から、含蜜糖製造事業者が抱える喫緊の課題に対して必要な取り組みを継続し、総合的な成果目標である含蜜糖製造事業者の経営安定の達成を図る。
- ②成果目標達成に向けて、JA、生産組合、製糖事業者等との連携を強化し、さとうきび増産及び品質向上に向けた取り組みを行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



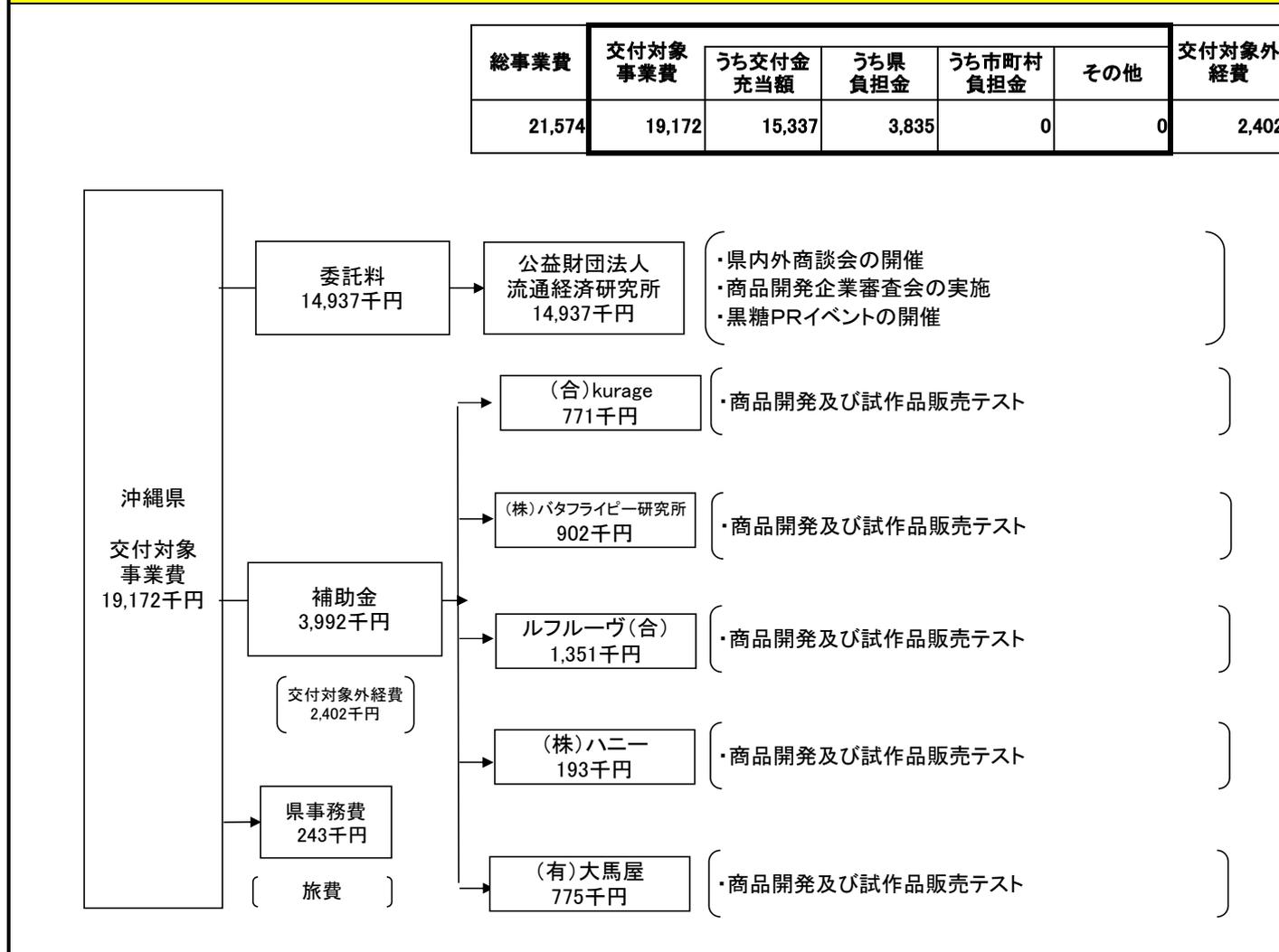
資金の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○(公社)沖縄県糖業振興協会は、さとうきび及び糖業に関する専門的知識を有する組織として、本事業の事業実施主体として適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	77	沖縄黒糖販路拡大推進事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	3-(7)-ウ-⑤			
担当部課名	農林水産部 糖業農産課	事業実施（予定）年度	R2～R6 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	製糖業の経営基盤強化と高度化推進 Ⅲ-1-(6) Ⅲ-9		
事業内容	業界団体及び黒糖製造事業者において黒糖の販路拡大の支援が必要なことから、県内外における商談会の実施や、沖縄黒糖を使用した商品開発等の支援などを通して、新たな需要開拓に取り組む。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度（    年度）						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（    ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	25,330	0	25,518	0	27,237
		(b) 予算現額	25,330	0	25,518	0	27,237
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計 (b+d)	25,330	0	25,518	0	27,237
	B. 執行済額		16,659	0	19,246	0	19,172
	うち交付金充当額		13,327	0	15,397	0	15,337
	C. 次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率（%）(B/A)		65.8%		75.4%		70.4%
予算の状況の説明		沖縄黒糖の需要拡大や消費拡大を図るため、商談会の開催に要する経費として委託料、商品開発の補助支援として補助金を計上した。 執行率は70.4%であり、主に補助金の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	県外における商談会の開催	目標	2回	2回	1回	1回	
		実績	1回	2回	1回	1回	
	県内における商談会の開催	目標	1回	1回	1回	1回	
		実績	1回	1回	4回	4回	
	黒糖商品の生産・販売の支援	目標	実施	実施	実施	実施	
		実績	実施した	実施した	実施した	実施した	
	観光や展示会等におけるPR活動の実施	目標	実施	—	実施	実施	
		実績	実施した	—	実施した	実施した	
進捗状況説明	沖縄県黒砂糖協同組合および含蜜糖製糖事業者、委託事業者にて県内外における商談会や、観光や展示会等におけるPR活動を実施した。商談会では193社と名刺交換を実施し、商談成約に向け取組は継続中である。また、PR活動は、県内3回、県外1回開催し、黒糖の販売促進に努めた。						
成果目標（指標）及び達成状況	R6成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R7年度）
	沖縄黒糖を使用した商品の生産・販売を行う企業数	目標	—	4社	4社	4社	—
		実績	—	8社	8社	5社	—
	【R7成果目標】 沖縄黒糖を使用した商品の生産・販売を行う企業数		目標				4社
	達成状況説明	成果目標である沖縄黒糖を使用した商品の生産・販売を行う企業数は5社であり、目標は達成できた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>当面、新型コロナウイルス感染症禍により減少した影響が残る中で、既新規需要の掘り起こしが必要である。</p> <p>また、商談会については、県外のイベント会場でPRも兼ね幅広く周知を行ったのち、バイヤーを現地に招致する形で実施した。その結果商談後の成約に結びついたものもあるが、今後も商談会への参加を行うとともに、興味を示した者へ新規商品開発の機運を高めるため、情報発信の強化を行っている。今後は、商談会の開催場所を含めた開催方法の工夫と精査、ノウハウの蓄積が必要である。</p>	<p>商談後の成約に結びつく精度の高い商談会とし、維持するためには、引き続き開催方法の工夫と精査、ノウハウの蓄積を図る。</p> <p>また、新規需要の開拓のため商品開発にかかる情報発信の継続及び強化を図る。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>引き続き、商談会の開催による新たなユーザーの獲得や、商品開発の補助支援に取り組みつつ、観光や展示会等におけるPR活動の実施に取り組み。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 費目 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○予算規模は、委託業務量を勘案した予算規模となっており、適正である。</p> <p>○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	79	沖縄県産豚肉消費活性化事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-ウ-②			
担当部課名	農林水産部 畜産課	事業実施 (予定)年度	R2~R6 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	沖縄県のアグーブランド豚肉を県外消費者にPRすることでアグーブランド豚肉の認知度向上及び販路拡大を図る。						
効果発現年度	■当年度      ■後年度(令和6年度)						
実施方法	□直接実施    ■委託      □補助      □負担      □その他 ( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	20,000		14,213		14,213
		(b) 予算現額	20,000		14,213		14,213
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	0		0		
		A. 計(b+d)	20,000	0	14,213	0	14,213
	B. 執行済額		19,778		13,630		14,078
	うち交付金充当額		15,823		10,904		11,262
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.9%		95.9%		99.1%
予算の状況の説明		・執行率は99.1%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	アグーブランド豚肉の魅力発信 1回	目標	2回	2回	1回	1回	
		実績	4回	3回	-	3回	
	高級飲食店、量販店でのフェア 2回	目標	1回	1回	1回	1回	
		実績	4回	8回	16回	12回	
	ハンズオン支援 1回	目標	-	-	2回	1回	
		実績	-	-	2回	2回	
	(参考)販促ツールの作成	目標	-	-	1回	1回	
		実績	-	-	1回	1回	
進捗状況説明	令和6年度はすべての活動目標において、目標値以上の実績を上げた。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (R3年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R6年度)
	アグーブランド豚肉を県外に販売する商談の 成立件数:2件	目標	-	2件	2件	2件	-
		実績	-	21件	16件	7件	-
	【R6成果目標】 県産豚肉県外出荷量	目標	8,077,923kg	7796078kg	6,881,347kg	6,970,842kg	令和3年度 比6%以上 増
達成状況説明	令和6年度に実施した高級飲食店等でのメニューフェア等の実施により、アグーブランド豚肉を県外に販売する商談の成立件数が7件となり、目標を達成した。 県産豚肉(一般豚も含む)県外出荷量については、県内の養豚飼養頭数が減少傾向にあることなどの影響により基準値と比較すると、減少傾向にあるが、令和5年度から令和6年度にかけては、約1.3%の増加となっている。更に、アグーブランド豚の出荷頭数は、令和2年度以降、増加しており、当事業による一定の効果があつたと推察される。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アグーブランド豚は成長速度や歩留まりの悪さ等の要因から一般豚に比べ生産コストが高い。また、県外へ流通する場合にも他地域の商品と比較し、配送コストが掛かる。</li> <li>・アグーブランド豚の定義や魅力等について、世論の認識に誤りがある場合がある。</li> <li>・高単価で取引が可能な高級飲食店等では、月毎や季節毎で定番メニューの構成を変更する場合も多い。</li> <li>・部位ごとに飲食店等からの引き合いに差がある。</li> <li>・アグーブランド豚のみならず県産の一般豚においても一定の需要があり、販路拡大の可能性はある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスト面でのデメリット以上に、魅力(付加価値)が備わった素材であるということを理解してもらう必要がある。</li> <li>・アグーブランド豚の定義や魅力等について、メディア等を活用して継続的に情報発信を行う。</li> <li>・「高価格・高付加価値」の商品として親和性の高いターゲット(高級飲食店等)を中心に販路開拓を進める。</li> <li>・アグーブランド豚のみならず、県産の一般豚についても販路拡大を行い沖縄県産豚肉の魅力を発信する。</li> <li>・アグーブランド豚をはじめとする県産豚肉取り扱う事業者の数を増やし、恒常的な消費が可能となるよう販促活動を継続し、新規事業者を開拓する。</li> <li>・県外と比較し、輸送費が抑えられる県内の高級飲食店やリゾートホテルへの販路拡大に取り組む。</li> <li>・飲食店等からの引き合いが弱い部位について、加工品での活用など、新たな販路開拓を行う。</li> </ul>

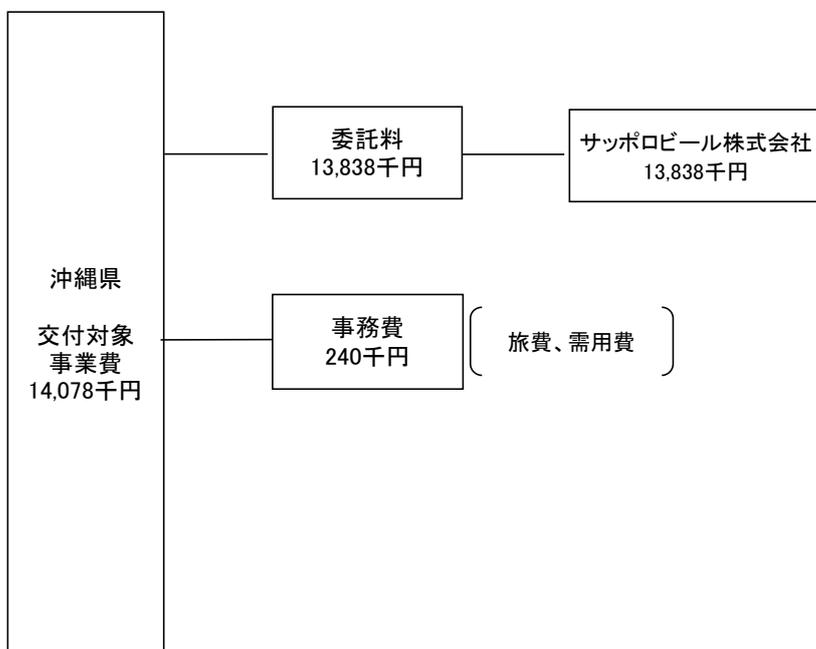
**今後の取り組み方針**

- ①アグーブランド豚をはじめとする県産豚肉の知名度を上げるとともに、継続的に正しい情報を発信することで、バイヤーや消費者に信頼感を与え、導入や購買意欲の向上に繋げる。
- ②県内外の異なる市場にアプローチすることで販路拡大を図る。
- ③アグーブランド豚のみならず、県産の一般豚についても販路拡大を行い、県内養豚業の振興に資する。

**資金の流れ**

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
14,078	14,078	11,262	2,816	0	0	0



資金の使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務先の選定に当たっては、公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘察した上で選定しており妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	59	AIを活用した作物障害画像診断に向けた体制整備事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	3-(7)-オ-③				
担当部課名	農林水産部 農林水産総務課	事業実施（予定）年度	R4～R8 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域特性を最大限に生かした農林水産技術の開発と普及 Ⅲ-1-（6）			
事業内容	人為的な病害虫及び栄養障害作物を作出し、画像データを集積する。現場での画像データも同時に集積する。							
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度（令和13年度）							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）							
予算額・執行額【単位：千円】		R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	77,700		69,495		75,745	
		(b) 予算現額	77,700		69,495		75,615	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	▲ 130	
		(d) 前年度繰越額						
		A. 計 (b+d)	77,700	0	69,495	0	75,615	
	B. 執行済額		67,540		66,976		75,073	
	うち交付金充当額		53,890		53,580		60,058	
	C. 次年度繰越額				0	0	0	
	執行率（%）(B/A)		86.9%		96.4%		99.3%	
予算の状況の説明		・執行率が99.3%と概ね計画的に執行した。						
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	統合データベースに用いる画像データ集積のための障害作物の作出		目標	-	作出する	作出する	作出する	
		実績	-	作出した	作出した	作出した		
進捗状況説明		病害虫においてはサトウキビ、カンショ、オクラ、ゴーヤー及びマンゴーにおいて、人為的接種により被害作物を作出した。また、栄養障害については、サトウキビ、オクラ及びカンショにおいて、水耕栽培により、栄養障害作物を人為的に作出した。						
成果目標（指標）及び達成状況	R6成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（13年度）	
	統合データベースに用いる画像データ数		目標	-	10,000枚	12,500枚	15,000枚	
			実績	-	12,116枚	17,776枚	26,692枚	
	【R13成果目標】 診断システム利用者の農薬の散布回数		目標	-	-	-	-	1割減
	【R8成果目標】 病害虫診断正答率		目標	-	-	-	-	80%
達成状況説明		人為的に障害を起こした作物やほ場における障害作物の画像を撮影後、アノテーション（AIが学習する箇所をマーキングすること）を行うことにより、統合データベースに用いる教師画像データを26,692枚作成し、目標を達成した。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①障害により、同等の枚数でも判別率が高いものと低いものがあり、症状により違いがある。 ②栄養障害については物体検出よりも画像分類で判別させる方が判別率がかかり向上することが明らかになった。 ③機械学習方法は日進月歩で進んでおり、新たな手法を取り入れる必要がある。	①判別率が向上しないものについては、教師画像データを増やすとともに、アノテーション手法の検討が必要。 ②栄養障害については、水耕栽培の教師画像データに土耕栽培のデータを追加する必要がある。 ③画像分類を学習させるYOLO(物体検出のための機械学習モデル)のバージョンの検討を行う。

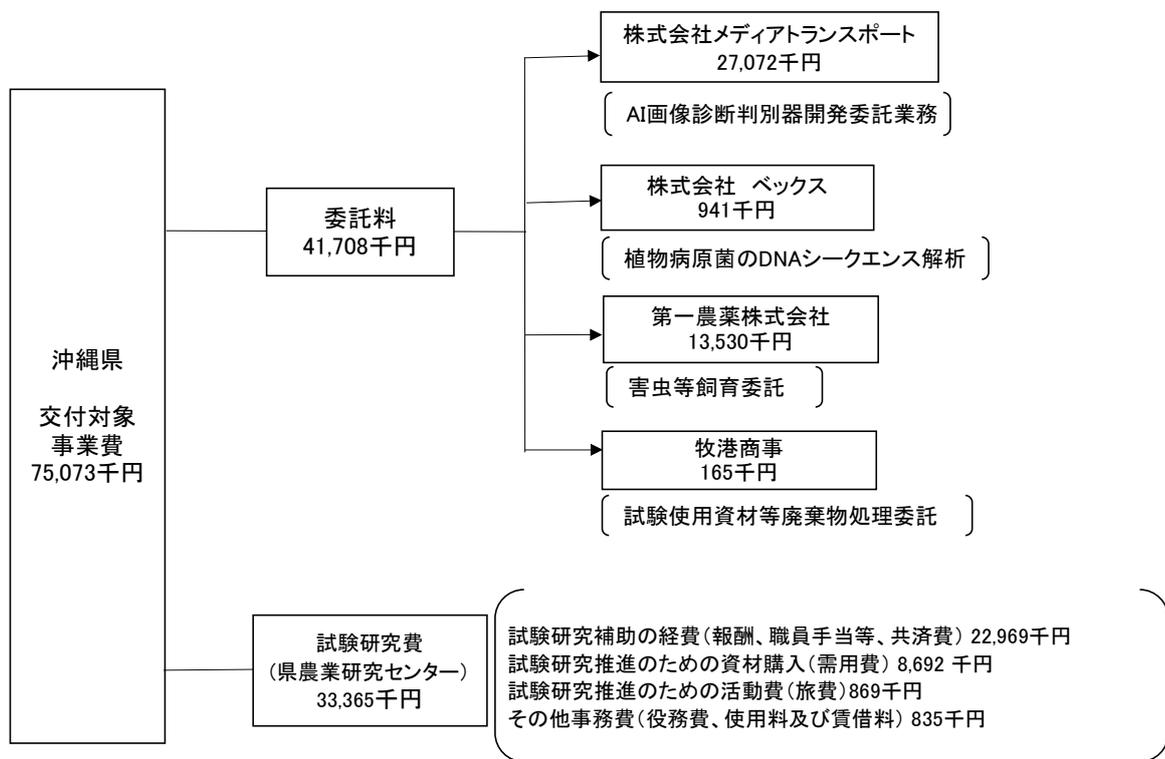
**今後の取り組み方針**

- ①アノテーション手法を水平の矩形から症状の傾きに合わせた斜めの矩形や、症状のエッジ部分を囲む多角形による方法を検討する。
- ②画像の収集が遅れている障害について、障害作物の作出を重点的に行い、画像収集を加速させる。

**資金の流れ**

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
75,073	75,073	60,058	15,015	0	0	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
○		支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、委託成果審査会を開催し事業の内容や進捗状況を審査した上で契約を行ったことから、妥当であったと考える。 ○費目・用途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。
○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
○		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

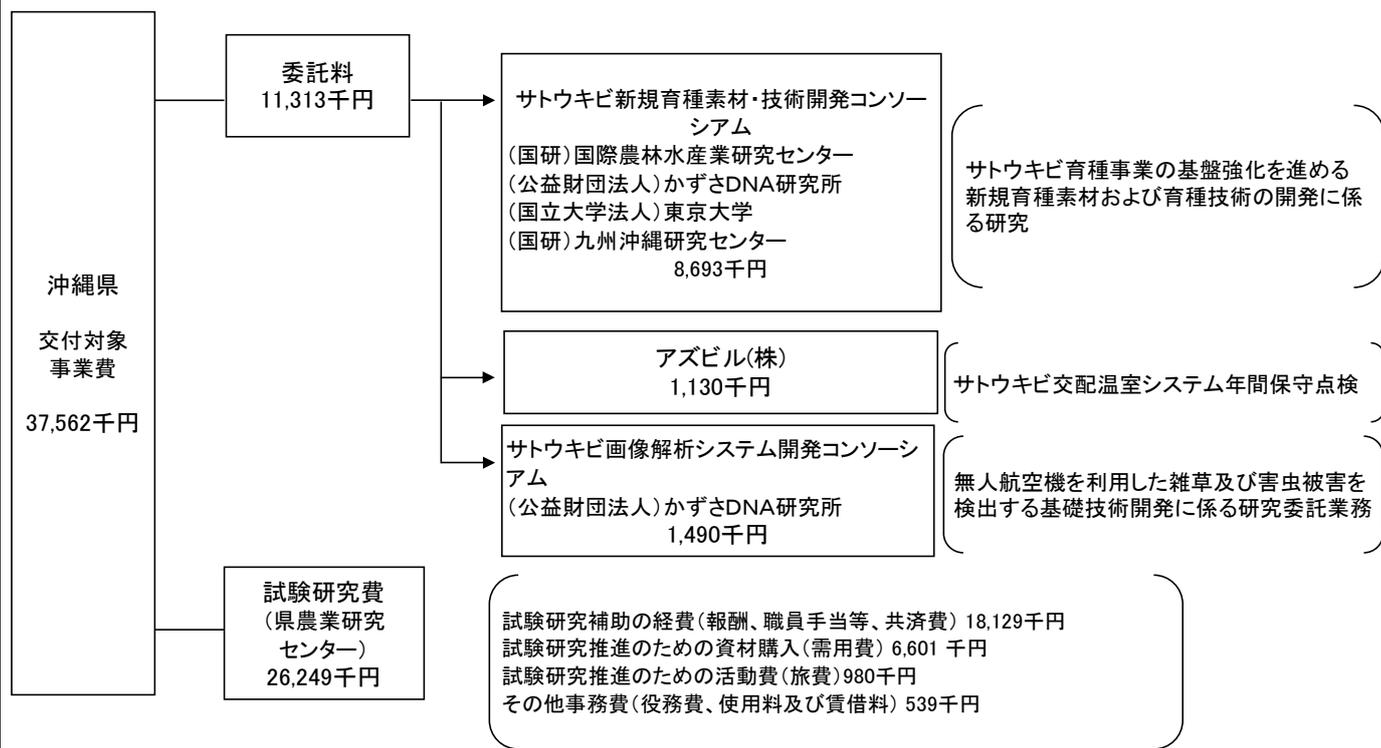
事業番号・事業名	60	地域を支えるサトウキビ大規模栽培体系構築事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-オ-③			
担当課名	農林水産部 農林水産総務課	事業実施 (予定)年度	H30~R8 年度	地域特性を最大限に生かした農 林水産技術の開発と普及			
事業内容	①収量への影響が少ない省力技術の開発、植付け技術の開発、体系案の提示と検証 ②農業機械の自動操舵およびドローンによる各種作業の実施と作業時間、面積の検証 ③新規育種素材を活用した交配後代集団の特性調査						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和13年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度	
	(a) 当初予算額	37,052		33,453		41,528	
	(b) 予算現額	37,052		33,453		41,528	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d) 前年度繰越額						
	A. 計(b+d)	37,052	0	33,453	0	41,528	
	B. 執行済額	33,273		28,710		37,562	
	うち交付金充当額	26,618		22,968		30,049	
	C. 次年度繰越額			0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	89.8%		85.8%		90.4%	
予算の状況の説明	・執行率は90.4%であり、サトウキビ交配時期の気温が高かったため、予定していた需用費(燃料費)の執行額が減少したことによるものである。						
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	①株出し栽培での管理作業における収量性への評価(3工程)	目標		収量への影響が少ない省力技術の探索(3工程)	収量への影響が少ない省力技術の探索(3工程)	収量への影響が少ない省力技術の探索(3工程)	
	プランタ改良による発芽性の評価	実績		収量への影響が少ない省力技術探索実施(3工程)	収量への影響が少ない省力技術探索実施(3工程)	収量への影響が少ない省力技術の確認(3工程)	
	②農業機械の自動操舵、ドローンの作業性および効果試験(3作型)	目標		自動操舵およびドローンによる各種作業の検証(3作型)	自動操舵およびドローンによる各種作業の検証(3作型)	自動操舵およびドローンによる各種作業の検証(3作型)	
		実績		自動操舵およびドローンによる各種作業探索実施(2作型)	自動操舵およびドローンによる各種作業探索実施(3作型)	自動操舵およびドローンによる各種作業探索実施(3作型)	
	③種属間交雑後代の生育特性評価試験及び選抜(8系統)	目標		交配後代集団の特性調査(8系統)	交配後代集団の特性調査(8系統)	交配後代集団の特性調査(8系統)	
	実績		交配後代集団の特性調査の実施(12系統)	交配後代集団の特性調査の実施(13系統)	交配後代集団の特性調査の実施(15系統)		
進捗状況説明	①収量への影響を確認するため、(1)植付け、(2)株揃え、(3)根切り排土作業の省略およびピレットプランタの発芽促進について実施した。 ②ドローンにおける(1)春植え、(2)株出し、(3)夏植え圃場での画像取得法開発と解析、除草剤散布方法の検証を行うとともに、ドローンによるセンシング技術開発の委託事業を実施した。 ③育種に関する委託事業において、新規系統の評価やゲノム情報の整備を行った。また、3次選抜10系統、4次選抜3系統、5次選抜2系統を評価し次の試験に供試する。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (13年度)
	省力管理と収量の試験結果より、活用する技術の絞り込み案の提示(3→2工程)	目標		省力技術の探索の検討	省力技術の探索のリスト化	省力技術のリスト化と評価	
		実績		省力技術の探索を実施した	省力技術のリスト化を実施した	省力技術のリスト化と評価を実施した	
	自動操舵トラクタ及びドローンによる作業性、効果試験結果と効率利用の技術案、課題の提示(3作型のうち2工程)	目標		各種作業の検証	各種作業の検証	各種作業の検証	
		実績		各種作業を検証した	各種作業を検証した	各種作業を検証した	
	新規育種素材交配後代集団の特定調査、圃場での評価より、高次選抜系統(1系統)及び次回試験系統の提案(8系統)	目標		交配後代集団の特性調査	交配後代集団の特性調査、圃場での評価	交配後代集団の特性調査、圃場での評価	
		実績		交配後代集団の特性調査を実施した	交配後代集団の特性調査、圃場での評価を実施した	交配後代集団の特性調査、圃場での評価を実施した	
【R13 成果目標】 管理作業の省力化・時間削減が可能な栽培体系の普及による一農家あたり収穫面積向上	目標					10%	
【R13 成果目標】 マーカー育種技術を利用して育成した台風や干ばつに強く収量が安定する品種導入	目標					1品種	
達成状況説明	①サトウキビ省力栽培について、各作業の省略やピレットプランタでの発芽促進について調査し、リスト化と評価により目標達成した。 ②スマート農業機器での自動操舵、ドローンによる除草剤散布方法の検証を行った。圃場の害虫センシングは、データの蓄積を行い、解析を実施し、目標を達成した。 ③耐病性と根の改良系統の選抜を進めた。ゲノム情報の整備を行った。また、根が強く農業特性にも優れた新品種開発に向けた有望系統の調査、評価を行い、選抜して、次の試験へ供試し目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①機械化一貫管理作業が収量に与える影響及び、スマート技術を組み込んだ作業体系について、株出栽培での検討を十分に行うためには、株出回数を増やした調査が必要となり、合わせて試験面積を拡大する必要がある。</p> <p>②虫害被害や雑草の発生程度の評価と、ドローンを利用した薬剤防除の効果を高い精度で解析するには、更に大量の画像データを蓄積し検証する必要がある。</p> <p>③株出栽培を想定した機械化一貫体系に適した品種開発のため、継続して新系統を選抜する必要がある。また育種の効率化を図るため、ゲノム情報の集積をさらに進める必要があり、遺伝子解析の量を一定量確保する必要がある。</p>	<p>①株出栽培を基本とした省力栽培体系の構築では、各地域で共通で利用できる技術と、栽培品種等の地域の状況に合わせた技術を勘案した体系とするため、各試験地で株出栽培の調査面積の拡大が必要となる。</p> <p>②画像解析に必要な条件等を整備して実施すると同時に、ドローンによる薬剤防除の効果も検証しながら効率的に実施する。</p> <p>③評価を実施する系統数と解析する領域については、引き続き作業効率や遺伝的優先度を確認して実施する。</p>

今後の取り組み方針
<p>①機械化一貫作業が収量に与える影響の調査及び、スマート技術を組み込んだ技術の検証について、継続して各作型で実施する。高培土や根切り排土、株揃え作業の省力化体系について再現性を確認し、合わせて本島及び宮古、八重山の各地域の実状に合わせた体系化を行う。</p> <p>②害虫や雑草のスマートモニタリング方法を確立するため、蓄積してきた画像の解析を進める。またドローンによる薬剤防除の効果を引き続き検証する。</p> <p>③遺伝子解析等のボリュームに留意しつつ、選抜作業の効率化を図りながら有望系統の選抜を進める。</p>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
37,562	37,562	30,049	7,513	0	0	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○研究に関する委託を行っており委託事業者は、企画提案プロポーザルなど事業の内容によって選定した、特殊施設は特命随契となっているが、妥当であったと考える。</p> <p>○費目・用途については、事業報告書等进行检查し、適正である事を確認した</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	61	持続可能な沖縄型果樹生産技術開発事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-オ-③			
				地域特性を最大限に生かした農 林水産技術の開発と普及			
担当部課名	農林水産部 農林水産総務課	事業実施 (予定)年度	H25~R8	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)	
事業内容	<p>・収穫期予測技術開発に向けて、画像データの蓄積を行い、予測に必要な生育基準点の検出法を開発する。</p> <p>・可視化データを活用した感覚的に理解しやすい栽培マニュアル作成のため、優良生産者圃場を選定し、その施設内環境データおよび樹体情報を収集する。</p> <p>・鮮度保持、1次加工製造技術、安定供給技術の開発にむけた基礎特性の把握や安定生産に向けた栽培技術開発を行う。</p> <p>・新規品目による栽培技術開発に向け、新規品目の評価を行うとともにゲノム情報を活用したパインアップル等のスマート育種システム導入を目指す。</p>						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和13年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】	予算 の 状 況		R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度
		(a) 当初予算額	38,815		34,964		41,214
		(b) 予算現額	38,815		34,964		43,089
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	1,875
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	38,815	0	34,964	0	43,089
		B. 執行済額	30,443		33,675		41,921
		うち交付金充当額	24,355		26,940		33,537
		C. 次年度繰越額	0		0	0	0
		執行率(%) (B/A)	78.4%		96.3%		97.3%
予算の状況の説明	・執行率は97.3%であり、概ね計画的に執行された。						
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	デジタル技術によって識別が可能な生育基準画像の抽出(パインアップル・マンゴー)	目標		要素の抽出	画像データの蓄積	画像の抽出	
		実績		要素の抽出のための検討を行った	各生育ステージの画像を収集した	各品目で生育ステージを認識精度の向上を検討した	
	マンゴー等における栽培ステージ毎の作業の可視化および環境データの数値化を進める。	目標		可視化のためのデータ収集	マンゴー優良生産者データ収集	マンゴー優良生産者データ収集	
		実績		可視化のためのデータ収集を行った	マンゴー優良生産者圃場において環境データを収集した	マンゴー優良生産者圃場において環境データを収集した	
	1次加工特性・鮮度保持・機能性試験(アセロラ・パイン・ピタヤ)や安定生産に向けた栽培技術開発(4品目)を実施する。	目標		安定生産に向けた各種栽培試験を実施した。	安定生産に向けた各種栽培試験を実施した。	安定生産に向けた各種栽培試験を実施した。	
		実績		安定生産に向けた各種栽培データを得た。	安定生産に向けた各種栽培データを得た。	安定生産に向けた各種栽培データを得た。	
	安定生産技術開発に向けた栽培試験の実施	目標	-	栽培試験の実施	-	-	
		実績	-	栽培試験を実施した。	-	-	
新規品目導入に向けた栽培試験の実施およびマンゴー品種開発に向けDNAマーカーを活用し、交雑確認を進める。	目標			新規品目の評価およびマンゴーDNAマーカーの開発	新規品目の評価およびマンゴーの交雑確認		
	実績			新規品目の評価を行った。また、マンゴーDNAマーカーの開発を実施した。	新規品目の評価を行った。また、マンゴーDNAマーカーにより交雑確認を行った。		
進捗状況説明	<p>①マンゴーは開花状況、パインアップルは出蕾から果実肥大期に画像データを収集し、委託先に提供した。収集した画像について解析を進め、各生育状況の判定に向けた画像識別に関する精度向上を図っている。</p> <p>②優良生産者4名の施設内環境データを収集し、各種栽培管理と環境データとの関連性の解析を進めている。</p> <p>③ピタヤ、パインアップル、アセロラ、シークワーサーに関して鮮度保持条件の確立および加工特性評価を実施し、ピタヤとパインアップルについては東京までの輸送実証試験を行った。</p> <p>④中晩性カンキツ、インドナツメを対象に、安定生産技術開発に向けた栽培試験を実施している。また、マンゴーのDNAマーカーを活用し、マンゴー実生個体の交雑確認を実施した。</p> <p>・その他、アセロラ、パッションフルーツ等の果樹品目においても研究課題ごとに、単年度成績書を取りまとめ、推進会議で検討している。</p>						

成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値	R4年度	R5年度	R6年度	目標値
			(〇〇年度)				(令和13年度)
栽培ステージ毎の画像データの蓄積(パインアップル、マンゴーの2品目:画像データ各1,000枚以上収集)	目標	-	-	1品目:100枚	2品目: 各1000枚以上	2品目: 各1000枚以上	-
	実績	-	-	1品目: 2,500枚を検証した	パイン・マンゴー:動画を含む各1000枚以上の画像データを収集した。	パインは15,665枚の画像データ、マンゴーは1,220枚の拡張画像データを用いて検証を行った。	-
マンゴー優良生産者圃場において施設内環境および樹体データの収集(4生産者以上)および優良事例の検証	目標	-	-	1品目:4生産者以上	1品目:4生産者以上	1品目:5生産者以上	-
	実績	-	-	1品目:5生産者のデータを収集した。	マンゴー:5生産者の環境データを収集した。	マンゴー:5生産者の環境データを収集した。	-
鮮度保持・1次加工品製造技術の開発にむけた基礎特性の把握(3品目)	目標	-	-	2品目	3品目	-	-
	実績	-	-	3品目の基礎特性把握のための試験を行った。	4品目の基礎特性把握のための試験を行った。	-	-
鮮度保持技術の開発にむけた実証試験(1品目以上)およびヒートポンプ(HP)を活用したマンゴーの早期安定着花技術の開発	目標	-	-	-	-	実証試験1品目安定着花技術1件	-
	実績	-	-	-	-	・2品目で輸送実証試験を行った。 ・マンゴーHPの安定着花技術を1件普及技術へ提案した。	-
新規品目評価(2品目以上)およびマンゴーの品種開発に向け交雑確認を実施する	目標	-	-	1品目以上	新規:2品目以上マンゴーDNAマーカー開発	新規:2品目以上マンゴー交雑確認 50個体	-
	実績	-	-	2品目の栽培、品質評価試験を行った。	2品目の栽培、品質評価試験を行った。マーカー開発を実施した。	2品目の栽培、品質評価試験を行った。206個体交雑確認を行った。	-
【R13成果目標】 先端技術を活用した画像等による栽培管理支援技術の実用化	目標	-	-	-	-	-	2品目
【R13成果目標】 マンゴーにおいて収量を安定して得られる栽培体系の確立	目標	-	-	-	-	-	平均反収 0.9t/ha
【R13成果目標】 生果および1次加工品供給期間の延長	目標	-	-	-	-	-	生果:1.5倍 加工品:周年
【R13成果目標】 新規品目の導入による収穫期拡大による冬期取扱量の増大	目標	-	-	-	-	-	冬期取扱量 10%増
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンゴーは満開日判別に向け開花日から開花終了日にかけて、学習用1,220枚の拡張画像データを用い、認識率向上に向け検証した。また、パインアップルは出蕾期から開花期の学習用62,809枚、検証用15,665枚の画像データを用い検出精度向上を検証したことから目標は達成した。</li> <li>・マンゴーの栽培管理技術の可視化を進めるため優良生産者圃5カ所で実施した。目標は達成した。</li> <li>・果樹品目の安定供給体制構築に向け、ピタヤ、パインアップル、アセロラ、シークワサーの4品目で鮮度保持条件を検討した。また、ピタヤとパインアップルの2品目においては東京までの輸送実証試験を行ったことから、目標は達成した。</li> <li>・新規品目の導入による収穫期拡大および安定生産技術開発にむけて、インドナツメおよび中晩柑「津之輝」の2品目で試験栽培を行ったことから目標は達成した。</li> <li>・マンゴー実生個体206個については、DNAマーカーにより交雑確認を行い、育種の効率化を図った。目標は達成した。</li> </ul>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンゴーの満開時期の画像解析においては、枝の重なりにより認識精度が低下する。</li> <li>マンゴーの障害発生要因については、土壌分析や植物体分析のみでは、原因の特定が難しい。</li> <li>沖縄の環境および土壌条件では、カンキツでのシールディングマルチ(S.マルチ)の効果が限定的である。</li> <li>収穫予測技術など開発中の研究成果に関しては現地などでの検証が必要となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンゴーの開花状況の撮影位置を検討する。</li> <li>マンゴーの障害発生要因の課題については、水耕・ポット栽培による要素欠乏過剰試験を行い、障害要因について検討する。</li> <li>国頭マージ土壌において乾燥状態の維持に向けたあらゆる対策を講じる。</li> <li>開発中の研究成果については、知財管理を念頭に入れながら、JAの指導員や果樹担当普及員との情報共有を図り、現場実証に向けた調整を進める。</li> </ul>

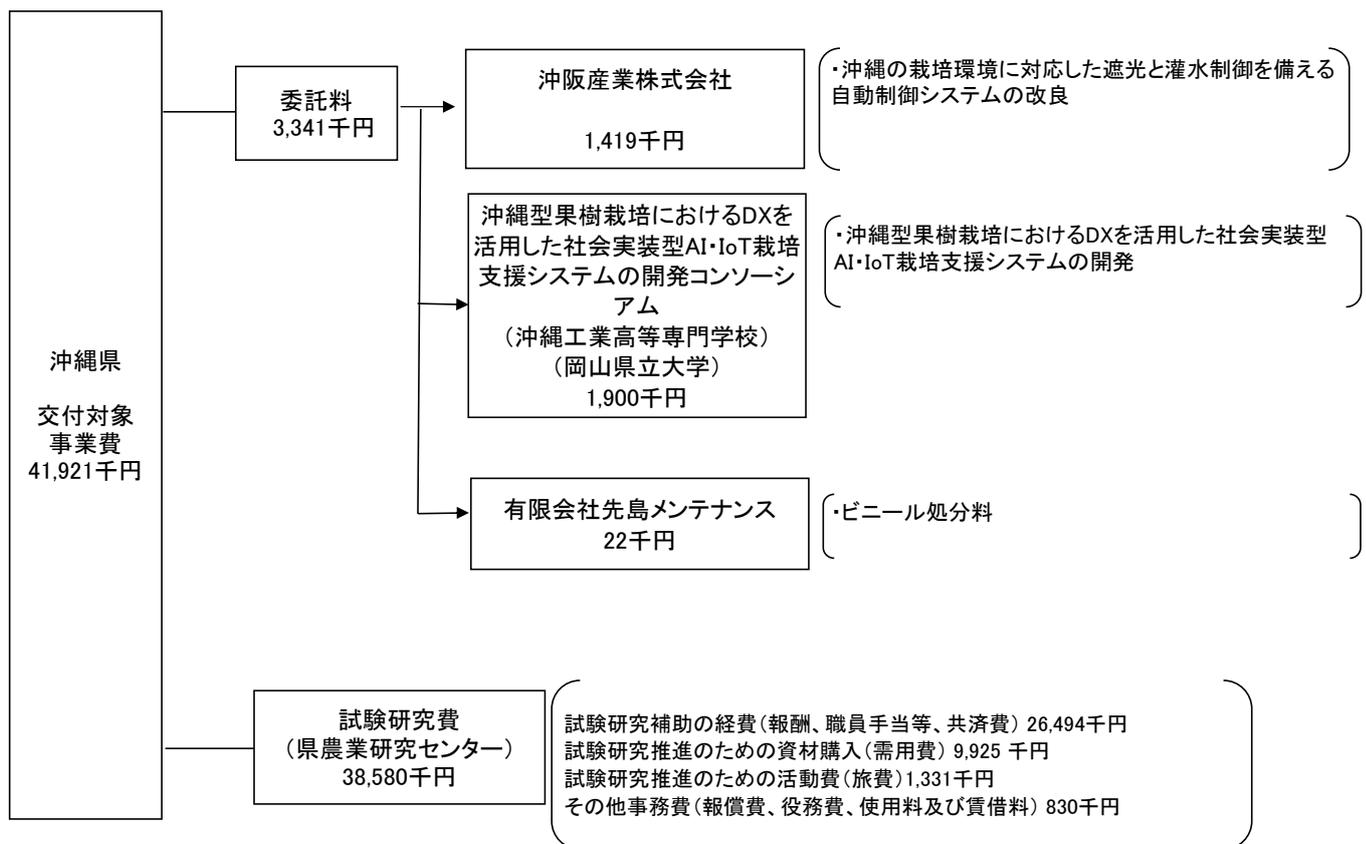
**今後の取り組み方針**

- マンゴー開花状況の把握に関しては、ハウス内上部に設置したカメラとアルミレールを用いた自動撮影システムの構築を行うことで撮影アングルを変更し、花穂の認識率向上を図る。
- マンゴーの水耕・ポット栽培による要素欠乏過剰試験を継続して実施し、障害の発消長を確認するとともに、耕種的な対策法の検討を進める。
- 「天草」でのシールディングマルチ(S.マルチ)栽培では、地下水位を測定しながら排水対策を行い、S.マルチ栽培を含めた品質向上技術を開発する。
- 開発中の研究成果については、現地実証試験を行い、成果の有効性を検証する。

**資金の流れ**

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
41,921	41,921	33,537	8,384	0	0	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先の選定については、特殊性の高い業務であり、公募型プロポーザル方式による審査や入札を経て適正に実施した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要性・規模を判断するとともに、額の確定時は支出書類により確認したところ適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	62	労働力不足と環境負荷軽減に対応する沖縄型園芸農業技術開発事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	3-(7)-オ-③			
				地域特性を最大限に生かした農林水産技術の開発と普及			
担当部課名	農林水産部 農林水産総務課	事業実施（予定）年度	H30～R8 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	①病害虫に強く作業性に優れたゴーヤーの品種育成を行う。 ②野菜類（サヤインゲン等）において作業の省力化と環境負荷軽減に関する栽培技術の検討を行う。 ③病害虫に強く作業性に優れた花きの品種の検討を行う。 ④花き類における省力的防除方法、環境負荷を軽減する施肥条件の検討を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度（R13年度）						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】	予算の状況		R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度
		(a) 当初予算額	32,045		28,919		35,169
		(b) 予算現額	32,045		28,919		35,299
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	130
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計 (b+d)	32,045	0	28,919	0	35,299
		B. 執行済額	24,795		27,417		34,412
		うち交付金充当額	19,835		21,933		27,530
		C. 次年度繰越額	0		0	0	0
		執行率（%）(B/A)	77.4%		94.8%		97.5%
予算の状況の説明	・執行率は97.5%であり、概ね計画どおりに執行できた。						
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	①ゴーヤーの品種選抜試験を実施する。	目標		8系統	6系統	2系統	
		実績		8系統	6系統	4系統	
	②サヤインゲン等における環境制御や天敵等を用いた防除技術等の試験を実施する。	目標		1件	2件	1件	
		実績		1件	2件	2件	
	③キク類の品種選抜試験を実施する。	目標		赤輪ギク2系統 黄輪ギク10系統	16系統	3系統	
		実績		赤輪ギク4系統 黄輪ギク13系統	16系統	6系統	
	④キク類等における防除作業の軽労化、適正施肥量に関する試験を実施する。	目標		2件	2件	2件	
		実績		2件	2件	2件	
進捗状況説明	①ゴーヤーの品種選抜試験は、交配親の組み合わせ検定として4系統を用いて実施した。 ②野菜類における省力栽培技術及び環境負荷軽減技術に関する試験の2件実施した。 ③キク類の品種選抜試験は、生産力試験として輪ギク、スプレーギク、夏秋ギクなど6系統を用いて実施した。 ④花きにおける省力栽培技術及び環境負荷軽減に関する試験を2件実施した。						

R6成果目標(指標)		基準値	R4年度	R5年度	R6年度	目標値
		(H30年度)				(R13年度)
①ゴーヤーの育種素材を2系統以上選定する。	目標	-	4系統以上	6系統以上	-	
	実績	-	5系統	6系統	-	
①ゴーヤーの父母本候補を2系統以上選定する。	目標	-	-	-	2系統以上	
	実績	-	-	-	2系統	
【R13成果目標】 開発された品種及び栽培技術の導入により、栽培に係る作業時間10%又は農薬や化学肥料の使用量10%を低減する。	目標	農薬散布時間 40h/10a	-	-	-	農薬散布時間 36h/10a
②野菜類における省力的栽培技術に関する試験成績を1件報告する。	目標	-	1件	1件	1件	
	実績	-	1件	2件	2件	
【R13成果目標】 開発された品種及び栽培技術の導入により、栽培に係る作業時間10%又は農薬や化学肥料の使用量10%を低減する。	目標	農薬散布時間 35.5h/10a	-	-	-	農薬散布時間 32h/10a
③有望なキク類を3系統以上選抜する。	目標	-	赤及び黄輪ギク 各1系統以上	6系統以上	3系統以上	
	実績	-	赤1,黄3系統	6系統	4系統	
【R13成果目標】 開発された品種及び栽培技術の導入により、栽培に係る作業時間10%又は農薬や化学肥料の使用量10%を低減する。	目標	農薬散布時間 27.2h/10a	-	-	-	農薬散布時間 24.5h/10a
④花きの省力的栽培技術、環境負荷軽減技術に関する試験成績を各1件報告する。	目標	-	1件	1件以上	2件	
	実績	-	2件	2件	2件	
【R13成果目標】 開発された品種及び栽培技術の導入により、栽培に係る作業時間10%又は農薬や化学肥料の使用量10%を低減する。	目標	農薬散布時間 33.3h/10a	-	-	-	農薬散布時間 30h/10a
達成状況説明	<p>①ゴーヤーの選抜試験ではうどんこ病抵抗性ゴーヤーの父母本候補を2系統選抜し、目標を達成した。</p> <p>②ゴーヤーの環境制御の自動化の試験成績書及びオクラの適正施肥量に関する試験成績書の2件作成し目標を達成した。</p> <p>③キク類の有望系統の選抜において、輪ギク、スプレーギク、夏秋ギクなど4系統選抜し、目標を達成した。</p> <p>④トルコギキョウにおける環境制御の自動化試験及びキクの省力的防除機の開発の試験成績書の2件を作成し、目標を達成した。</p>					

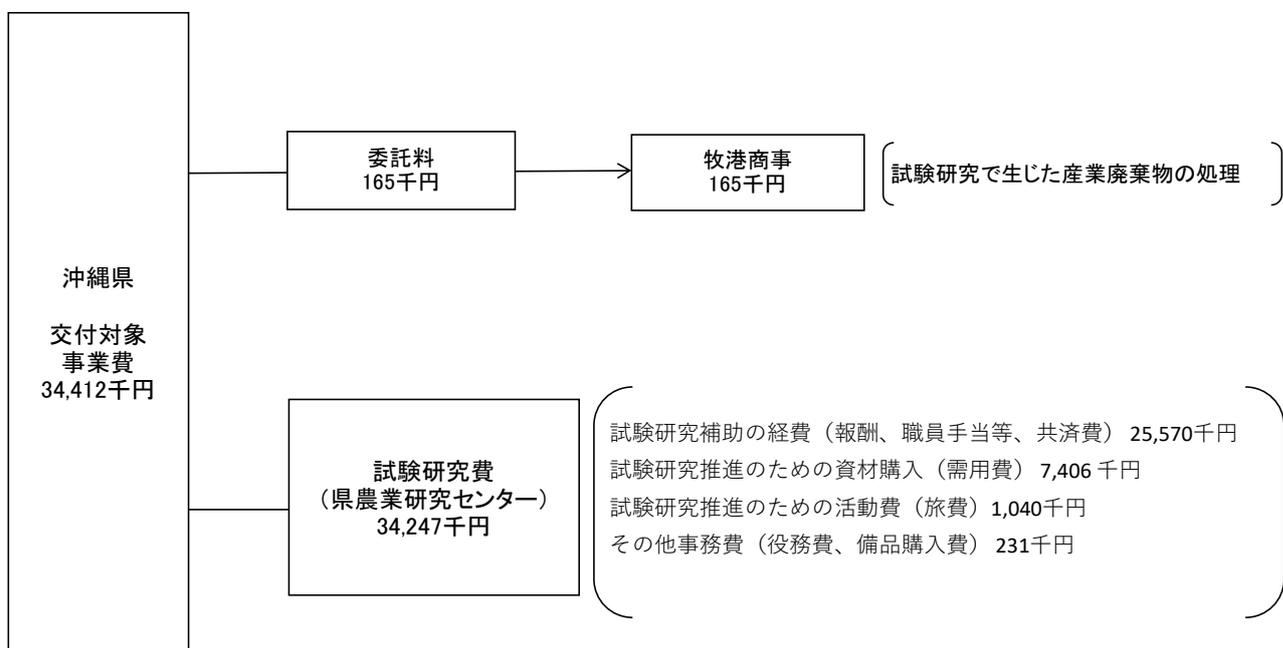
R6-No.62

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①12~2月の低温によりゴーヤーの生育に悪影響を及ぼす可能性がある。</p> <p>②自動側窓開閉装置の開閉は故障や停電による不具合が生じる可能性がある。</p> <p>③例年と比較すると梅雨明け後から夏秋期の異常高温、定植期の異常降雨により活着・生育不良や立ち枯れが発生し、採穂や定植に遅れが生じたため試験に影響を与えた可能性がある。</p> <p>④畝が水平ではなくわずかの勾配がついていたために土壌水分に偏りが生じ、生育に影響を与えた可能性がある。</p>	<p>①低温による生育不良を防ぐには、ハウス内の保温管理や過度な着果負担を減らす必要がある。</p> <p>②自動側窓開閉装置の定期的な動作確認や、停電時の対策が必要である。</p> <p>③採穂や定植に遅れが生じないようにするために、親株圃への遮光や地温上昇抑制等の高温対策、定植圃の高温・排水対策などが必要である。</p> <p>④畝に勾配が発生するのを防ぐためには、圃場準備の作業時から配慮が必要である。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>①ハウスの側窓管理による保温や草勢を落とさないための受粉管理を徹底する。</p> <p>②定期的な動作確認や換気扇の活用など、自動側窓開閉装置が停止した場合のリスク軽減対策を行う。</p> <p>③気象状況を定期的に確認し、採穂や定植に遅れが生じないようにするために親株圃の高温対策、定植圃の高温・排水対策などを見直す必要がある。</p> <p>④トラクターによる耕うんを行う際に土壌の偏りが生じないように留意するとともに、畝立て時にも勾配が生じていないかを都度確認する。</p>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
34,412	34,412	27,530	6,882	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については、事業報告書等进行检查し、適正である事を確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	63	沖縄アグー豚ゲノム育種推進事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)		3-(7)-オ-③		
担当部課名	農林水産部 農林水産総務課	事業実施 (予定)年度	H25~R8	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所		
事業内容	沖縄アグー豚の貴重な遺伝資源を維持・増大し、更なる生産振興を図るため、遺伝的多様性を維持しつつ肉質と生産性の改良を両立したゲノム育種改良手法を確立するための取組を実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度( R12年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】			R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	8,619		6,119		14,460
		(b) 予算現額	8,619		6,261		14,759
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	142	0	299
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計 (b+d)	8,619	0	6,261	0	14,759
	B. 執行済額		7,973		6,205		14,289
	うち交付金充当額		6,379		4,964		11,431
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		92.5%		99.1%		96.8%
予算の状況の説明		・会計年度任用職員の給与引上げに伴い、予算現額に増額が生じた。 ・執行率は96.8%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	肉質改良の検証:2農場4頭	目標		2農場4頭			
		実績		2農場4頭検証した			
	繁殖性の選抜基準となる形質の調査	目標		調査の実施			
		実績		調査を実施した			
	形質情報の収集:192頭	目標		192頭			
		実績		192頭収集した			
	DNA情報の収集:67頭	目標			67頭		
		実績			96頭収集した		
繁殖性の選抜基準となる形質の調査:100頭	目標			100頭			
	実績			100頭調査した			
繁殖性について、ゲノム情報と血統情報を考慮した育種改良手法に関する試験研究を1件報告する。	目標				試験研究報告1件		
	実績				試験研究報告1件		
進捗状況説明		試験研究報告を1件報告した。					

成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)	基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (〇〇年度)	
	肉質改良検証による選抜雄種豚能力の評価	目標		評価の実施			
		実績		実施した			
	繁殖性の改良目標の設定	目標		改良目標設定			
		実績		設定した			
	形質データとゲノム情報から繁殖能力のゲノム育種価を推定する方法の決定	目標			推定方法の決定		
		実績			推定方法を決定した		
	・繁殖性について、ゲノム情報と血統情報を考慮した育種改良手法の検証(R6)	目標				育種改良手法の検証	
		実績				育種改良手法の検証した	
	【R12年度成果目標】 ・繁殖性改良による繁殖能力の向上	目標					10%向上 (R7年度基準)
【R12年度成果目標】 ・アグーブランド豚の生産頭数の増頭	目標					30%増頭 (R2年度基準)	
達成状況説明	・繁殖性について、ゲノム情報と血統情報を考慮した育種改良手法を検証した。						

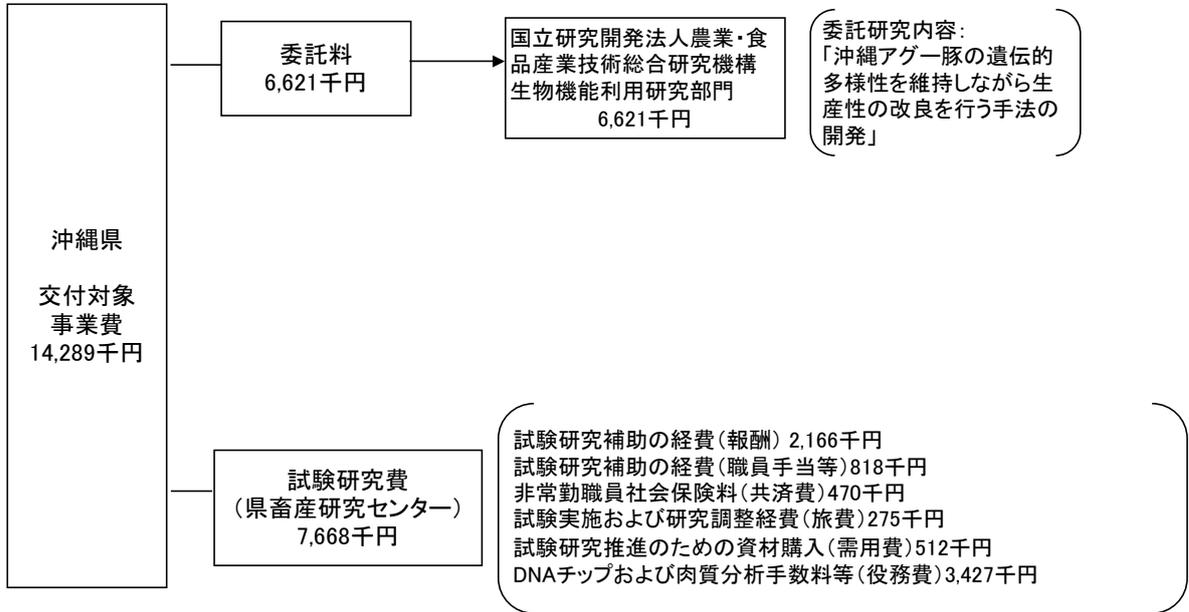
R6-No.63

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝的多様性が極めて低いことに加え、現状の生産供給体制では恒常的な集団維持への影響が懸念される。</li> <li>・ゲノムや血統情報、それに紐づく形質データについて、データ蓄積が少なく、解析精度が低い。</li> <li>・生産現場で事業成果を活用していくための、基本方針や規定の更新が進んでいない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲノム情報と血統情報を活用して、繁殖能力の遺伝的能力評価方法を開発し、遺伝的多様性を維持した沖縄アグー豚の恒常的な生産体制を構築していく必要がある。</li> <li>・ゲノムや血統情報、それに紐づく形質データについてデータベースのデータ蓄積を増やしていく必要がある。</li> <li>・関係機関と推進体制を構築し、連携を図りながら、基本方針や規定の更新を進めていく必要がある。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝的多様性の維持や生産供給体制を改善するために、問題点とその課題の抽出を行い、ToDoリストを作成し、実行する。</li> <li>・ゲノム情報、血統情報、形質データ等を整理・収集し、データベース化を促進していく。</li> <li>・関係機関と連携しながら生産現場実装に向けた課題共有や推進体制の構築を図りつつ、基本方針や規定への事業成果の反映に取り組む。</li> </ul>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
14,289	14,289	11,431	2,858	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定していること、さらに委託業務の進捗状況を確認しており、妥当であったと考えている。 ○費目、使途については支出に関する関係書類により、事業目的に沿って適切に執行されているか確認を行ったところ、適切に執行されていた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	64 持続可能な森林造成支援システムの構築事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	3-(7)-オ-③				
担当部署名	農林水産部 農林水産総務課	事業実施（予定）年度	R2～R8	年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域特性を最大限に生かした農林水産技術の開発と普及	
事業内容	耕作放棄地等造成未利用地（非農地）を造林地として有効に活用するため、前植生及び土壌調査箇所において樹木を植栽し、初期成長を調べる。また、既存の造林地において生育不良の箇所を調査（土壌、環境）し、生育不良となった原因を検討する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度（令和9年度）						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】		R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	20,527		17,321		14,752
		(b) 予算現額	20,527		17,179		14,652
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 142	0	▲ 100
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計 (b+d)	20,527	0	17,179	0	14,652
	執行額	B. 執行済額	19,840		13,923		14,439
		うち交付金充当額	15,872		11,138		11,551
		C. 次年度繰越額			0	0	0
	執行率 (%) (B/A)	96.7%		81.0%		98.5%	
予算の状況の説明	耕作放棄地等造成未利用地（非農地）を造林地として有効に活用するため、令和4年度から継続事業として、植栽予定箇所の植生及び土壌調査、既存の造林地における生育不良の箇所調査、生育不良となった原因の検討に要する経費として委託料、備品費、事務費等を計上した。執行率は98%であり概ね計画的に執行できた。						
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	①前植生調査の実施	目標		1ha			
		実績		1ha			
	②土壌分析調査の実施（1haのうち植生が特徴的な1500m <sup>2</sup> を対象）	目標		1500m <sup>2</sup>			
		実績		2500m <sup>2</sup>			
	③植栽による土壌評価試験の実施	目標			0.5ha植栽		
		実績			0.5ha植栽		
	④環境要因による影響調査	目標		0.5ha×2箇所	50地点	25地点	
		実績		①0.26ha、②1.48ha	55地点	30地点	
⑤選定した2種類の土壌改良方法について植生、土壌条件から1種類を決定	目標			1種類	1種類		
	実績			3種類	1種類		
⑥令和7年度新規植栽箇所において植生調査、土壌調査を実施する。	目標				20地点		
	実績				24地点		
進捗状況説明	既存の造林地において植栽木の成長量調査を実施するとともに各種土壌調査を実施した。（④）植栽済みの箇所において樹木の成長量調査、土壌の調査を実施し植栽手法を1種類決定した。（⑤）令和7年度新規植栽箇所において植生調査、土壌調査を実施し植栽前の状況調査を完了した。（⑥）						
成果目標（指標）及び達成状況	R6成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R9年度）
	①植栽による土壌評価試験プロットの設置	目標		1箇所			
		実績		1箇所			
	②環境要因による影響調査プロットの設置	目標		2箇所			
		実績		4箇所			
	③環境要因による影響調査	目標		1箇所			
		実績		1箇所			
	④植栽木を調査することにより土壌改善手法を選定	目標			2手法	1手法	
		実績			3手法	1手法	
	⑤既存造林地での調査により土壌改善手法を選定	目標			2手法		
実績				3手法			
⑥植栽前の植生と土壌の物理性、化学性を明らかにし、システム構築の基礎データとする。	目標				20地点		
	実績				24地点		
⑦既存造林地での調査により適地適木表を改善する。	目標				2箇所		
	実績				3箇所		
【R9年度成果目標】	本事業の成果を活用した造林事業の面積		目標				2ha/年
達成状況説明	既存造林地での調査により適地適木表改善のための調査を実施し、目標を達成した。（⑦）土壌改善手法の調査を実施し、効果的な手法1種類を提案し、目標を達成した。（④）令和7年度新規植栽箇所の植生と土壌の物理性、化学性の調査を実施し、目標を達成した。（⑥）						

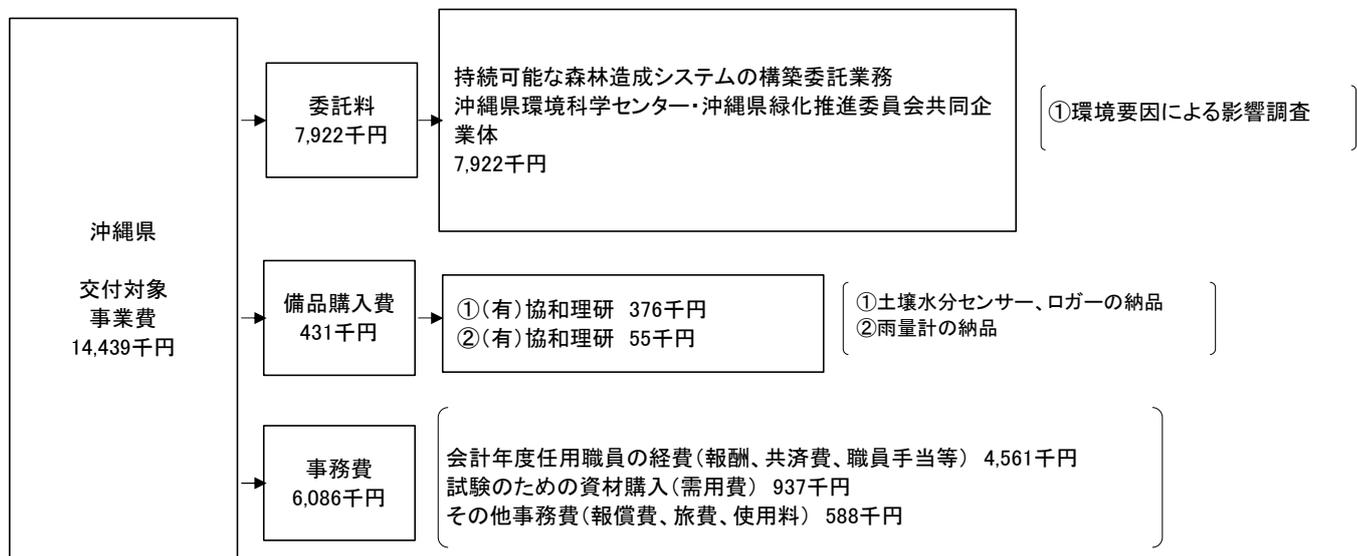
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	春先の気温や日照条件が例年より良い日が続き、採種予定の樹木の開花・結実が早まり一部の樹木で植栽用の苗木本数が目標に届かなかった。(活動目標や成果目標には影響なし)	採種開始時期を採種適期から前倒しするとともに、期間中は繰り返し採種を行う。

**今後の取り組み方針**

令和7年度は土壌改良手法を絞り込んだうえで、多様な造林樹種を植栽する。また、未熟土壌の改良の基礎資料とするため、落葉落枝の分解試験を実施する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
14,439	14,439	11,551	2,888	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先の選定については、特殊性の高い業務であり、公募型プロポーザル方式により適正に選定した。 ○費目・使途については、事業報告書等支出に関する関係書類により、事業目的に沿って適切に執行されていることを確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	65	オキナワモズクの生産底上げ技術開発事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-オ-③			
				地域特性を最大限に生かした農 林水産技術の開発と普及			
担当部課名	農林水産部 農林水産総務課	事業実施 (予定)年度	H29~R8	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)	
事業内容	モズク養殖生産量の安定化の為、高水温耐性等を有する候補株を新たに3株選抜し、その機能性成分特性を確認する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和13年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】	予算 の 状 況		R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度
		(a)当初予算額	17,332		15,251		15,251
		(b)予算現額	17,332		15,251		15,363
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	112
		(d)前年度繰越額					
		A.計(b+d)	17,332	0	15,251	0	15,363
		B.執行済額	16,834		14,678		14,954
		うち交付金充当額	13,467		11,742		11,963
		C.次年度繰越額			0	0	0
		執行率(%) (B/A)	97.1%		96.2%		97.3%
予算の状況の説明	執行率は97.3%であり、概ね計画的に執行できた。						
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	①室内実験による耐性等の確認	目標	室内実験による耐性の確認	室内実験による耐性の確認	室内実験による耐性の確認	室内実験による耐性の確認	
		実績	室内実験による耐性を確認した	室内実験による耐性を確認した	室内実験による耐性を確認した	室内実験による耐性を確認した	
	②候補株の機能性成分分析の実施	目標		成分分析の実施	成分分析の実施	成分分析の実施	
		実績		成分分析を実施した	成分分析を実施した	成分分析を実施した	
	③候補株のゲノム解析の実施	目標	ゲノム解析を着手	ゲノム解析の実施	ゲノム解析の実施	ゲノム解析の実施	
		実績	ゲノム解析を着手した	ゲノム解析を実施した	ゲノム解析を実施した	ゲノム解析を実施した	
	④候補株の試験養殖の実施	目標	試験養殖の実施	試験養殖の実施	試験養殖の実施	試験養殖の実施	
		実績	試験養殖を実施した	試験養殖を実施した	試験養殖を実施した	試験養殖を実施した	
進捗状況説明	①収集した保存株を用い、室内試験により高温耐性を確認した。 ②養殖試験で得られたサンプルを用い、機能性成分分析を実施した。 ③候補株を福井県立大学へ提供し、ゲノム解析を実施した。 ④選定した候補株を使用し、県内2海域で養殖試験を実施した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (〇〇年度)
	①高水温耐性等を有するオキナワモズク候補株を3株選抜	目標		高温耐性等候補株3株を選抜する	高温耐性等候補株3株を選抜する	高温耐性等候補株3株を選抜する	
		実績		高温耐性等候補株3株を選抜した	高温耐性等候補株3株を選抜した	高温耐性等候補株3株を選抜した	
	②候補株の機能性成分と遺伝的特性把握、養殖試験による品質の確認	目標		品質確認を実施する	品質確認を実施する	品質確認を実施する	
		実績		品質確認を実施した	品質確認を実施した	品質確認を実施した	
	【R13成果目標】 オキナワモズク養殖生産量の対前年度比	目標					変動率 15%以内
達成状況説明	①室内実験により高水温耐性等を有するオキナワモズクの候補株を3株選抜した。 ②候補株を用い機能性成分と遺伝子特性把握、および養殖試験による品質の確認を行った。						

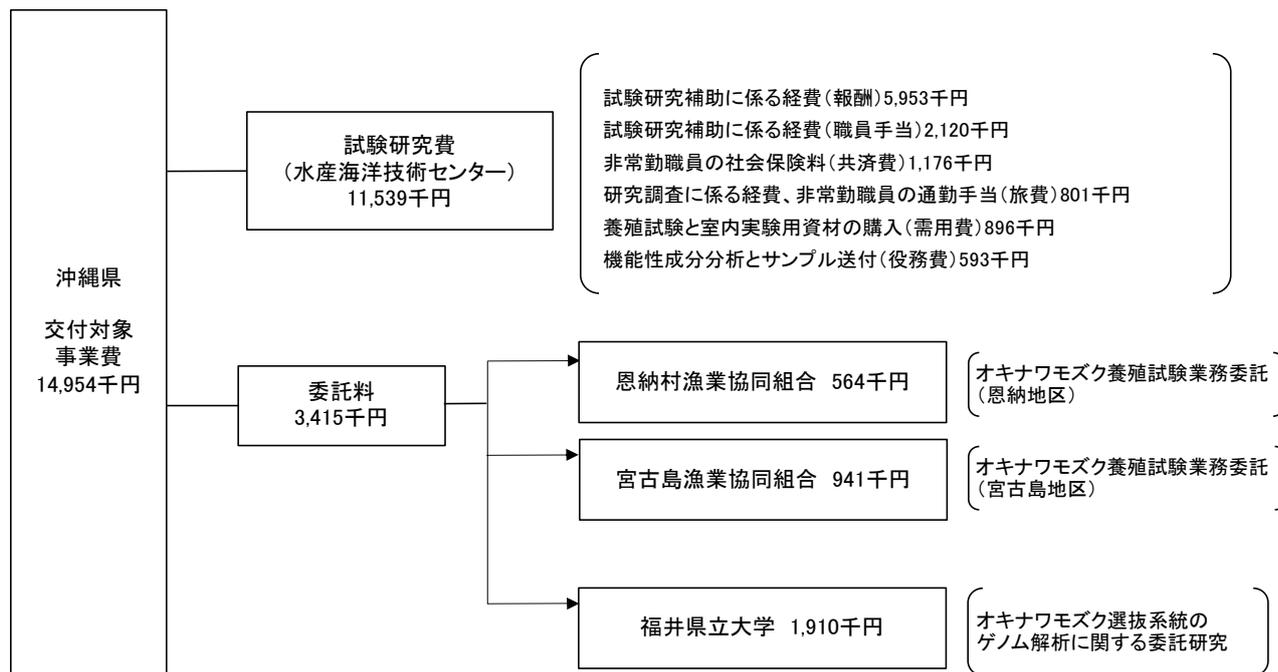
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	R6年度までの室内実験により選抜したうちの1株は、養殖試験により生産性と品質に優れることが明らかとなり、普及に資する優良株として評価された。その優良株の具体的な普及方針については、今後、県内各関係機関と協議した上で決定する必要がある。	今後の具体的な普及方針を定めるためには、これまでの研究成果を県内各関係機関に共有し、意見交換を行う必要がある。

**今後の取り組み方針**

産地漁協、県内生産者団体(沖縄県もずく養殖業振興協議会等)、および関係機関に対し研究成果の情報提供を行い、選抜した優良株の普及の進め方について協議する。また、本事業目標である優良株2株の選抜に向け、引き続き室内実験による生長特性の評価と養殖試験による生産性と品質の検証を行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
14,954	14,954	11,963	2,991	0	0	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、養殖管理を行い、かつ海域を熟知する漁協が対象となるため、随意契約が妥当であったと考えている。 ○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	66	ミーバイ養殖高度化に向けたガンジュー（健康）評価事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	3-(7)-オ-③			
担当部課名	農林水産部 農林水産総務課	事業実施（予定）年度	H27～R8 年度	地域特性を最大限に生かした農林水産技術の開発と普及 Ⅲ-1-(6)			
事業内容	養殖生産者の経営安定を図るため、血液分析等を取り入れた健康状態評価に関する研究を行う。						
効果発現年度	■当年度      ■後年度（令和13年度）						
実施方法	■直接実施    □委託    □補助    □負担    □その他（    ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,512	-	6,257	-	6,257
		(b) 予算現額	7,512	-	6,257	-	6,533
		(c) 増減額 (b-a)	0	-	0	-	276
		(d) 前年度繰越額	0	-	0	-	0
		A. 計 (b+d)	7,512	-	6,257	-	6,533
	執行状況	B. 執行済額	6,099	-	5,965	-	6,415
		うち交付金充当額	4,879	-	4,772	-	5,132
		C. 次年度繰越額	0	-	0	-	0
	執行率 (%) (B/A)	81.2%	-	95.3%	-	98.2%	
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養殖現場における生残率低下問題に対応するため、令和4年度から新規事業（平成27～令和3年度で実施したおきなわ産ミーバイ養殖推進事業の後継事業）として、飼育試験や血液の採取・分析等に要する需用費等を計上した。</li> <li>・給与改定及び差額遡及に係る経費の不足分の増額補正を行った。</li> <li>・執行率は98.2%であり、おおむね計画的に執行できた。</li> </ul>						
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況				
	養殖魚の血液性状と給餌飼料の調査の実施	目標	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
		実績	-	50検体以上、5経営体以上	調査の実施	調査の実施	
	給餌試験の実施	目標	-	3種類の飼料による比較	-	-	
		実績	-	2種類の飼料による比較	-	-	
	検討添加物のポリフェノール量測定	目標	-	5品目	-	-	
		実績	-	8品目	-	-	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養殖魚の血液性状と給餌飼料の調査の実施については、養殖経営体への説明と調査スケジュール調整、及び調査補助者の確保等の準備を計画的に進めたことにより、目標を達成した。</li> </ul>						
成果目標（指標）及び達成状況	R6成果目標（指標）		基準値（H30年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R13年度）
	●血液性状と給餌飼料の調査の継続 ・血液性状の季節変動データの蓄積（1歳魚） （養殖魚3ヶ月以上、試験魚10ヶ月以上）	目標	-	-	養殖魚、試験魚：各50検体	養殖魚3ヶ月以上、試験魚10ヶ月以上	-
		実績	-	-	養殖魚13、試験魚55検体	養殖魚8ヶ月、試験魚11ヶ月	-
	健康状態の指標となり得る血液成分の候補を選定する。	目標	-	選定の実施	-	追加的な選定の実施	-
		実績	-	選定の実施	-	選定の実施	-
【R13成果目標】ミーバイ養殖における生産額	目標	100%	-	-	-	115%	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養殖魚の調査については、8月から3月までの8ヶ月間継続して実施し、目標を達成した。</li> <li>・試験魚の調査については、6月を除いた11ヶ月間実施し、目標を達成した。</li> <li>・血液成分の候補の選定については、R4年度の選定候補の再検討を実施した。</li> </ul>						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミーバイの健康を評価するための血液成分等を14項目選定しているが、個体の成長段階や水温等の外部要因によって適正範囲(健康の指標)が変動する可能性がある。</li> <li>・R6～8年度に一時的に養殖用ミーバイ種苗の生産業務や、ミーバイの養殖試験の受託業務で当施設の水槽が使用されることから、生餌飼育等の試験に利用する水槽確保が課題となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体長や体重等の成長段階や水温等の外部要因に適応し、健康状態を評価可能な血液成分等を選定する必要がある。</li> <li>・既存魚類用水槽の利用調整、水槽の用意、試験魚サイズの小型化が必要である。</li> <li>・養殖場調査及び沖縄本島での養殖調査については、関係機関との連携を深め、検体数をより多く確保できるよう効率的に実施する必要がある。</li> </ul>
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・0歳魚から出荷サイズ(2～3歳魚程度)までの個体について、1年を通して継続的にデータを蓄積することで、個体の成長段階や、水温等の外部環境における血液成分等の変動を把握する。</li> <li>・小型な試験魚を飼育し、利用できる水槽の選択肢を増やせるよう採血の技術を向上させる。</li> <li>・魚類以外の水槽等に配管等の機能を整備することで、飼育水槽を新たに確保する。</li> <li>・石垣島の養殖場生産者や普及指導員等に事業の説明、調査内容の共有を行い、より効率的な調査を実施する。</li> </ul>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
6,415	6,415	5,132	1,283	0	0	0

沖縄県  
 交付対象  
 事業費  
 6,415千円

試験研究費  
 6,415千円

試験研究補助の経費(報酬、職員手当、共済費) 3,339千円  
 試験研究推進のための資材購入(需用費) 2,646千円  
 その他事務費 430千円

資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○分析手数料等高額な支出についても、県の規則やガイドラインに基づき適切な随意契約が行っており、妥当と考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○電気料金を事業での実使用量の一部分に基づき算定するなど、過大請求を生じない対策がなされている。
	○	費目・使途が事業目的に即真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	85	沖縄型森林環境保全事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-カ-②			
担当部課名	農林水産部 森林管理課	事業実施 (予定)年度	H29～R6 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-10-(1)		
事業内容	沖縄の貴重な森林を守るために、市町村等関係機関と協同して地域の状況に応じた防除戦略を策定するとともに、沖縄の森林に対する被害の大きい松くい虫や南根腐病について防除を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位：千円】		R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	43,853		92,832		99,331
		(b) 予算現額	86,712		92,832		99,331
		(c) 増減額(b-a)	42,859	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	86,712	0	92,832	0	99,331
	B. 執行済額		87,283		91,753		95,154
	うち交付金充当額		65,506		73,386		76,116
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.7%		98.8%		95.8%
予算の状況の説明		・予算額、執行済額には市町村負担金が含まれる。 ・執行率は95.8%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	防除戦略検討委員会の開催	目標	検討委員会の開催				
		実績	Web会議形式による検討委員会の開催				
	松くい虫被害への対応 340㎡	目標	被害木等の駆除の実施				
		実績	被害木等の駆除の実施				
	石垣島における南根腐病被害の実態調査を完了する。また、前年度選定した試験地2箇所、南根腐病に効果のある土壌くん蒸剤を用いた、モデル防除を実施する。	目標	実態調査の実施 モデル防除試験地の選定				
		実績	石垣島の実態調査完了 モデル防除を試験地2箇所 で実施				
	松くい虫防除のため伐倒駆除を700㎡、樹幹注入を8,500本実施する。	目標		伐倒駆除 536m3 樹幹注入 8,000本	伐倒駆除 700m3 樹幹注入 8,500本		
		実績		伐倒駆除 727m3 樹幹注入 8,211本	伐倒駆除 851m3 樹幹注入 9,615本		
(R6活動目標) 松くい虫防除のため伐倒駆除を800㎡、樹幹注入を9,000本実施する。	目標				伐倒駆除 800m3 樹幹注入 9,000本		
	実績				伐倒駆除 1,029m3 樹幹注入 7,092.5本		
学校や住宅地周辺等、人の往来の激しい地域で、南根腐病の土壌くん蒸剤を用いたモデル防除を実施する。	目標		モデル地区の選定	モデル防除の実施			
	実績		モデル地区の選定	モデル防除の実施			
(R4～R6活動目標) 南根腐病の防除手法に関する勉強会を開催し、普及啓発を行う。	目標		勉強会の開催	勉強会の開催	勉強会の開催		
	実績		勉強会の開催	勉強会の開催	勉強会の開催		
進捗状況説明	・令和6年度沖縄型森林環境保全事業において、松くい虫被害木の伐倒駆除を1,029m3実施した。また、感染防止のための樹幹注入を薬剤数7,092.5本(対象松本数1,675本)実施した。 ・南根腐病について薬剤を用いた防除を安全に実施するため、令和6年12月に宮古島、石垣島において、関係者に対して勉強会を開催した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (〇〇年度)
	松くい虫について令和6年度の被害量を738㎡以下にする。	目標				738m3	
		実績				14,538m3	
	南根腐病防除手法に関する勉強会(宮古・八重山地区)参加者20名以上	目標				20名以上	
		実績				21名	
達成状況説明	松くい虫被害量については、目標738㎡に対し、実績が14,538㎡で未達成となっている。達成できなかった主な理由は、恩納村や金武町での被害増加、東村や久米島町の被害継続によるものである。 南根腐病については、薬剤を用いた防除について勉強会を開催し、普及啓発することができたため、達成できた。						

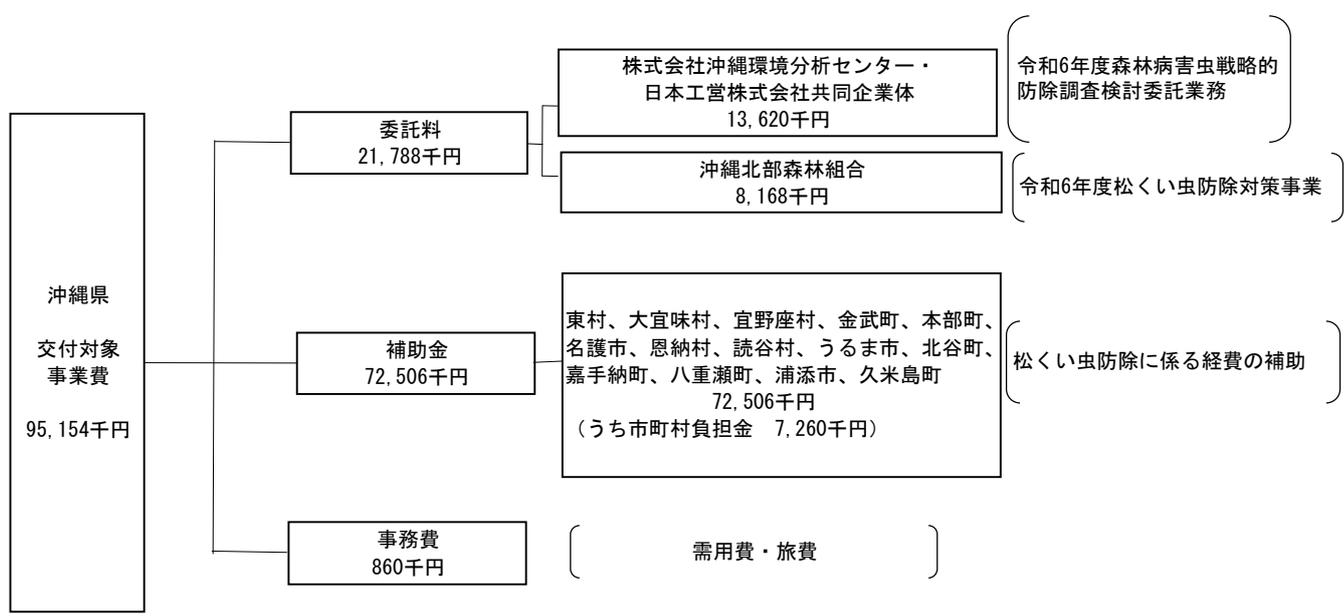
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・松くい虫                      沖縄本島北部において、ドローンや衛星画像、目視調査により被害を把握し、被害の北上化を防止するために適切な駆除を実施できた。しかし、対策が追い付かず、北部地域の各地で被害が拡大している。                      また、令和6年度は、前年度に予測した被害発生地に加え、国頭村の至る所で突発的に枯れマツが発生したため、可能な限り伐倒駆除を行った。                      また、久米島町において、貴重なマツを保全するため、町が主体となり防除を実施しているが、被害の奥地化、労力不足により、対策が追い付いていない。近年は、幹線道路周辺地域においても多くの枯れマツが発生しており、景観保全の観点から伐倒を実施している。</p>	<p>・松くい虫                      引き続き、衛星画像やドローン、目視による被害状況調査を実施し、適切な駆除を実施する。沖縄本島北部・久米島町ともに有識者の助言を得ながら、本島北部においては、被害北上化の防止や被害拡大の抑制、久米島町においては、貴重なマツを保全するため、引き続き周辺被害木の駆除や樹幹注入による予防を行う。                      また、補助金執行をさらに早め、伐倒駆除量の増加を図る。</p>

**今後の取り組み方針**

沖縄本島北部における被害最北端部での被害拡大を防止するため、令和6年度の被害発生地などを継続的に監視し、目視調査と併せて衛星画像やドローンを活用することで枯れマツの位置を特定し、効率的な伐倒駆除を実施する。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先				交付対象外経費
		うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	
99,714	95,154	76,116	11,778	7,260	0	4,560



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○受益者(市町村)負担については、沖縄特別振興対策事業で実施した「リュウキュウマツ景観保全対策事業」の補助率(国:県:市町村=8:1:1)を参考に設定しており、妥当である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、額の確定時において支出等を確認しており適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	70	特別栽培農産物認証等推進・普及事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	3-(7)-キ-①				
				環境に配慮した持続可能な農林水産業の推進				
担当部課名	農林水産部 営農支援課	事業実施 (予定)年度	H31~R6 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)			
事業内容	特別栽培農産物認証などの環境保全型農業のさらなる推進を目的に、特裁水準の栽培技術に関するマニュアル作成のための実証を行う。また、生産者や関係機関に制度の周知や栽培技術の普及を図る。 有機JAS水準の栽培可能性を検証する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )							
予算額・執行額 【単位:千円】	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度	
		(b) 予算現額	37,718		37,718		37,718	
		(c) 増減額(b-a)	37,718		37,718		37,718	
		(d) 前年度繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	0	0	0	0	0	
		B. 執行済額	37,718		37,718		37,718	
		うち交付金充当額	37,181		37,184		37,184	
		C. 次年度繰越額	29,745		29,747		29,747	
		執行率(%) (B/A)		98.6%		98.6%		98.6%
		予算の状況の説明	執行率は98.6%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R6活動目標(指標)		進捗状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	・園芸戦略品目の実証栽培、栽培マニュアル作成基礎データ収集(5品目)	目標		5品目	5品目	5品目		
		実績		5品目	5品目	5品目		
	・特別栽培農産物の栽培技術の普及、環境保全型農業の周知(5品目)	目標		5品目	5品目	5品目		
		実績		5品目	5品目	5品目		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度からモデル園場で検証栽培を行った施設栽培2品目(ピーマン、キュウリ)および露地栽培3品目(にんじん、葉野菜2品目)の各種データを元に、特裁マニュアル(5品目)を作成した。</li> <li>前身事業で作成した品目別マニュアル(さやいんげん、ゴーヤー、トマト、オクラ、かぼちゃ)を活用し、農家園場で技術を実証し、また現地検討会等を通じてJA営農指導員、普及指導員、農家等に周知することができた。</li> </ul>							
成果目標 (指標) 及び達成状況	R6成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (〇〇年度)	
	環境保全型農業の実践数	目標		1977件	2052件	2127件		
		実績		1967件	2006件	2066件		
	達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度末時点(1,827件)を基準として、年間75件増加を想定し、令和6年度末時点で2,127件を目標としたところ、実績が2066件と概ね達成した(達成率97%)。</li> </ul>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>①これまでに特別栽培農産物水準の栽培マニュアルを作成してきたが、個々の生産者の技術は必ずしも一定ではなく、技術が安定しなければ、栽培マニュアルだけでは一定水準の生産量や品質を保った特別栽培を実現することは難しい。</p> <p>②特別栽培農産物など環境保全型農産物の流通販売については取扱量やルート等がわかっておらず、情報が少ないのが現状である。</p>	<p>①栽培マニュアルに基づく生産を持続的に行うためには、栽培条件や規模等異なる条件で、生産量と品質の平準化を確保し、且つ安定した栽培技術を確立する必要がある。</p> <p>②今後産地での取組が拡大するにあたって、販路開拓が求められることから、ニーズを拾い、課題を把握する必要がある。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>①栽培マニュアルを活用して、栽培条件や規模等異なる生産者グループ(産地)単位で特別栽培の技術を実践する。また、技術向上のため、勉強会や現地検討会等を開催する。</p> <p>②販路拡大に向け、県内外の市場等を調査・分析し、販売に向けた課題を把握する。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
37,184	37,184	29,747	7,437	0	0	0
<pre> graph LR     A[沖縄県 交付対象 事業費 37,184千円] --&gt; B[委託料 37,184千円]     B --&gt; C[株式会社マイファーム 37,184千円 (マニュアル作成業務)]     C --&gt; D[委託料 1,500千円]     C --&gt; E[事務費、事業費 35,684千円]     D --&gt; F[沖縄協同青果 株式会社 (マーケット調査)]     </pre>						
資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目		評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。		<p>○委託業者は、公募型企画提案競争(プロポーザル方式)によって選定したため、妥当であったと考える。</p> <p>○費目、用途については、事業報告書等を検査し、適正であることを確認した。</p>		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。				
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。				
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

## 令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	82	沖縄型耕畜連携推進事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	3-(7)-キ-①			
				環境に配慮した持続可能な農林水産業の推進			
担当部課名	農林水産部 畜産課	事業実施（予定）年度	H29～R6 年度	新沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	<p>本県の酪農経営の課題のひとつとなっている家畜排せつ物処理問題について、現状・課題を分析し、具体的な対策方針を策定・普及することで、耕畜連携の体制を推進し酪農振興を支援を図る。</p> <p>①作物栽培試験 ②モデル地区における耕畜連携推進</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度（ R8 年度）						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】	予算の状況		R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度
		(a) 当初予算額	14,568	-	14,318	-	14,290
		(b) 予算現額	14,568	-	14,318	-	14,290
		(c) 増減額 (b-a)	0	-	0	-	0
		(d) 前年度繰越額		-		-	
		A. 計 (b+d)	14,568	-	14,318	-	14,290
		B. 執行済額	14,555	-	14,227	-	14,283
		うち交付金充当額	11,644	-	11,382	-	11,427
		C. 次年度繰越額	0	-	0	-	0
		執行率（%）(B/A)	99.9%	-	99.4%	-	100.0%
予算の状況の説明	<p>・酪農環境課題の解決及び耕畜連携を推進を図るため、令和4年度から新規事業（平成29～31年、令和3年に実施した沖縄型畜産排水対策課題解決モデル事業の後継事業）として、環境対策事例の作出及び実証試験等に要する経費として委託料等を計上した。</p> <p>・執行率は100%であり、計画的に執行できた。</p>						
活動目標（指標）及び進捗状況	R6活動目標（指標）		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	飼料作物を中心とした栽培試験（1期）	目標			2期	1期	
		実績			3期	1期	
	意見交換会開催（1回）	目標		1回	1回	1回	
		実績		1回	1回	1回	
進捗状況説明	<p>・飼料作物の栽培試験について、液肥をデントコーンに散布して嗜好性や飼料成分を把握する実証試験を実施した。</p> <p>・モデル地区における耕畜連携の推進について、飼料作物栽培試験結果およびモデル地区における需給バランスの検討結果について意見交換会を実施した。</p>						
成果目標（指標）及び達成状況	R6成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R8年度）
	液肥散布による飼料作物を中心に栽培試験を実施（1期）	目標			2期	1期	
		実績			3期	1期	
	意見交換会開催（1回）	目標		1回	1回	1回	
		実績		1回	1回	1回	
	【R8成果目標】南部地域酪農家と耕種農家等の堆肥・液肥利用の推進	目標					5件
達成状況説明	<p>①飼料作物の栽培試験について、液肥をデントコーンに散布して嗜好性や飼料成分を把握する実証試験を1期作実施し、目標を達成した。</p> <p>②モデル地区における耕畜連携の推進について、飼料作物栽培試験結果およびモデル地区における需給バランスの検討結果について意見交換会を1回実施し、目標を達成した。</p>						

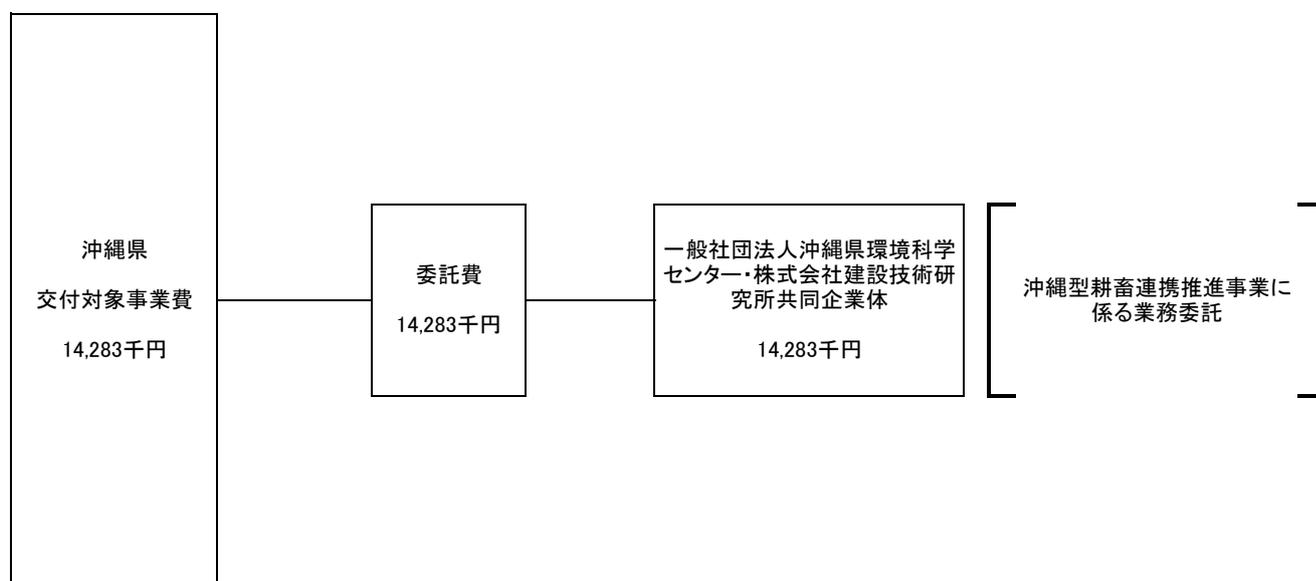
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	① 耕畜連携について、堆肥を生産する畜産側だけでなく、生産される堆肥を畑地に還元し、耕種側で有効活用する体制が十分に構築されていない等、耕種側との連携が課題となっている。 ② これまでの取り組みを通して、家畜ふん尿処理の課題として良質な堆肥生産技術が普及していないこと、技術者の不足などが浮彫りとなり、その影響による県産堆肥の品質のバラつきが課題となっている。	① 家畜ふん尿の資源循環を促進するために、耕種側の堆肥ニーズの把握、実際に耕種農家で堆肥を活用した実証試験を行い、耕畜連携のモデルを作出する必要がある。 ② 講習会等を開催し、良質堆肥生産技術の普及および技術者・指導者の人材育成が必要である。

**今後の取り組み方針**

- ① 耕種の堆肥需要と畜産の堆肥供給の現状を把握し、耕畜連携を推進する上での課題および解決策を検討するため、堆肥の需給実態調査する。また、耕畜連携の推進を加速化させるために、耕種農家で堆肥を利用した作物栽培実証試験を行い、モデルを作出する。
- ② 県産堆肥の高位平準化を目的に、堆肥生産における講習会の開催等による人材育成、堆肥センター協議会での意見交換を行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
14,283	14,283	11,427	2,856	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 委託事業者は公募型プロポーザル方式を採用し、一連の契約に係る見積書及び企画提案書等を徹し選定しており、妥当であったと考える。 ○ 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	